

第2次那霸市觀光基本計画

2025（令和7）年4月



はじめに

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

本市は、沖縄本島の南部に位置し、県庁所在地としての役割を果たすと共に、沖縄県の玄関口として広く知られております。また歴史や風土に培われた文化や伝統、自然と共生しつつ発展してきた都市環境、そこに生活する市民のマチグワーカー文化、温かい市民のホスピタリティなど、たくさんの魅力があふれています。これまで国内外から多くの旅行者が本市を訪れ、その魅力に触れ、文化や食を堪能し、観光を楽しんで頂いております。

本市では、平成27年に策定された「那覇市観光基本計画」及び平成30年に策定された「第5次那覇市総合計画」に沿った様々な観光施策を展開してまいりました。第2クルーズバースやモノレール

3両化など、観光客の受入体制の整備が進むなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光客数が大幅に減少したことは記憶に新しいでしょう。この未曾有の危機から観光回復を牽引する観光施策の当面の方向性を示すため、令和3年に「那覇市コロナ期観光回復戦略」を策定し、対応してまいりました。

コロナ収束後は、本市を訪れる観光客も回復しつつあり、近年ではサステナブルツーリズムやエコツーリズムなど、新たな観光の形態も注目されており、観光客のニーズも多様化しております。

国や沖縄県においても、今後の観光の在り方について、歴史、文化、自然等を尊重し、住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを示しております。本市におきましても、地域一体で持続可能な観光地づくりに取り組む視点などを踏まえ、目指すべき将来像として「みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市」を掲げ、その実現に向けた取組や目標値などを示した「第2次那覇市観光基本計画」を策定しました。市民が誇りをもち、観光客が何度も訪れたいと思う那覇市であり続けるよう、今後も皆様のお力添えをいただきながら、共に歩んでいきたいと考えております。

結びに、本計画策定にあたり専門的知見よりご審議いただきました那覇市観光審議会をはじめ、アンケートや市民ワークショップ、パブリックコメントにおいて貴重なご意見をいただきました市民、事業者の皆様に深く感謝を申し上げます。

いっぺー にふえーでーびる。



2025（令和7）年4月
那覇市長 知念 覚

目次

第1章 計画改定の概要

1 計画改定の経緯	P.5
2 計画の位置づけ	P.6
3 計画期間	P.7

第2章 観光を取り巻く状況

1 国内外の観光動向	P.8
(1) 概観	P.9
(2) 世界潮流	P.10
(3) 国内動向	P.12
(4) 沖縄県の動向	P.14
2 那覇市の観光を取り巻く現状	P.16
(1) 那覇市の観光概観	P.17
(2) 那覇市の観光実態	P.18
(3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価	P.21
3 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り	P.26
(1) 目標値に関する振り返り	P.27
(2) 那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り	P.28
(3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り	P.30
4 計画改定に取り込むキーワード	P.32

第3章 将来像と取組の柱

1 目指す将来像	P.35
2 「取組の柱」と「核とする観点・推進力」	P.35
(1) 取組の柱	P.36
(2) 核とする観点・推進力	P.37
3 目標値	P.38
4 観光ゾーニング	P.41
(1) 観光ゾーニングの目的と位置づけ	P.41
(2) 観光ゾーニングの基本的な考え方	P.41

第4章 取組の体系及び具体的な内容

1 取組の体系	P.45
2 取組の内容	P.47

第5章 推進体制と進捗マネジメント

1 推進体制の概要と基本役割	P.61
2 進捗のマネジメント	P.61

参考資料

1 用語解説	P.63
2 計画策定の経緯	P.67

第1章 計画改定の概要

1. 計画改定の経緯
2. 計画の位置づけ
3. 計画期間

1. 計画改定の経緯

那覇市では、第4次那覇市総合計画（2008（平成20）年度～2017（平成29）年度）に掲げる「人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市」の実現に向けて、沖縄県の観光振興基本計画等との整合を図りながら那覇市観光基本計画（以下、「前計画」という。）を2015（平成27）年度から2024（令和6）年度までの10年間を計画期間として、様々な観光施策に取り組んできました。

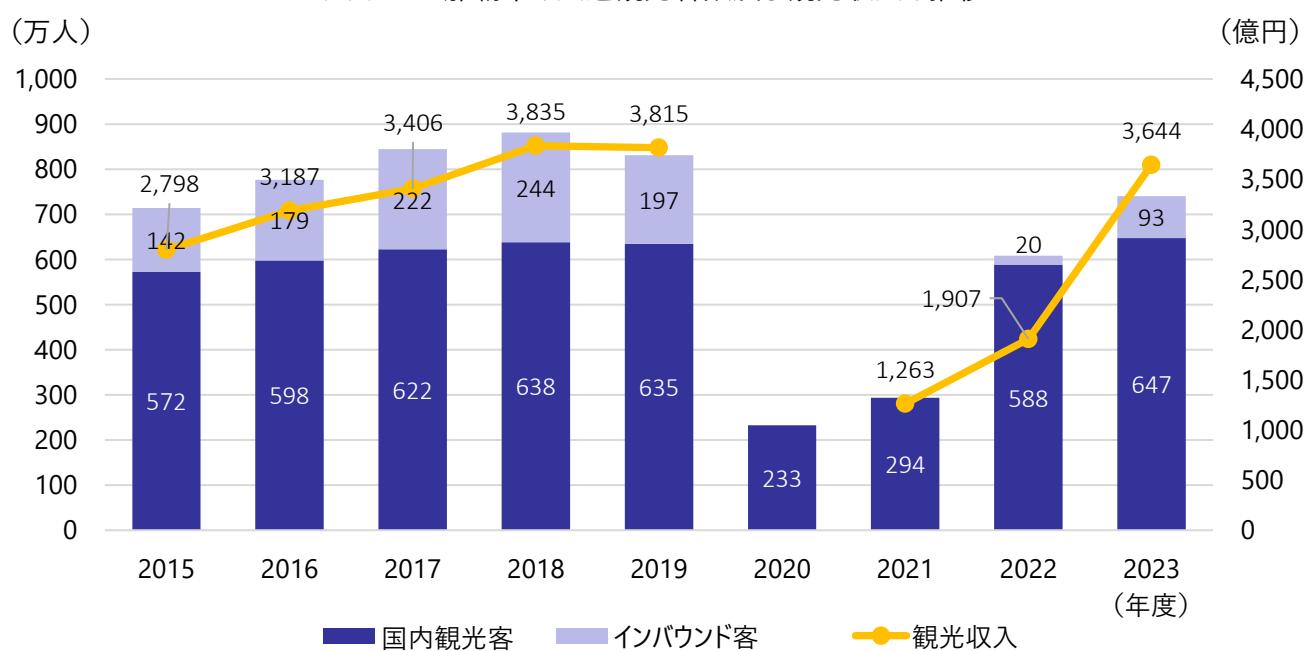
計画期間において、豊富な観光資源を通じた国内外からの観光客の集客により、2015年度の計画初年度は714万人であった観光客が、2018（平成30）年度にはインバウンド*の増加を中心に882万人と堅調に推移してきました。

しかしながら、2020（令和2）年からの新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」という。）の世界的な流行によって、2021（令和3）年度の観光客数は対2018年比で約66.7%減少し、観光収入も約67.1%の減少と、市内の観光産業は大きな打撃を受け、地域経済や雇用、市民生活にまで深刻な影響を及ぼしました。

コロナの影響を踏まえて、前計画の中間見直しについては保留とし、併せて、那覇市観光関連産業への支援や誘客活動などによる観光回復を牽引する観光施策の当面の方向性を示すため、那覇市コロナ期観光回復戦略（以下、「コロナ期戦略」という。）を策定しました。

コロナの経験を踏まえて、那覇市における観光振興の重要性を再確認し、観光振興を取り巻く世界潮流の変化、より多様化した観光客のニーズ、浮き彫りとなった那覇市の観光課題等を捉えるとともに、ゲートウェイ2050*プロジェクト（以下、「ゲートウェイ2050」という。）やLRT*導入に向けた取組等も見据えながら地域一体となって持続可能な観光振興を推進するべく、前計画を見直し、第2次那覇市観光基本計画（以下、「本計画」という。）を策定します。

グラフⅠ　那覇市の入込観光客数及び観光収入の推移



出典：那覇市「那覇市の観光統計」をもとに作成

※2020年度は観光収入の調査実施なし

2. 計画の位置づけ

本計画は、那覇市の長期的な総合計画である第5次那覇市総合計画（2018（平成30）年度～2027（令和9）年度）を上位計画とし、めざすまちの姿や施策の方向性との整合を図り、取り組むものとします。また、前計画と同様に関連する那覇市の他分野の計画や第6次沖縄県観光振興基本計画等と連動・整合させたものとします。

観光は、沖縄県において県経済を牽引する基幹産業の1つとされており、第三次産業の事業者が9割を超える那覇市においても、第5次那覇市総合計画において重要産業であることが明記されています。

総合計画の中では、まちづくりの将来像および5つのめざすまちの姿が示されており、観光は将来像及び全てのめざすまちの姿に関連しつつ、中でも「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまちNAHA」は、特段関連が深いめざすまちの姿であるといえます。

図表 本計画の位置づけ

第5次那覇市総合計画 (2018年度～2027年度)

第5次那覇市総合計画で示された観光関連の方向性

【将来像とめざすまちの姿】



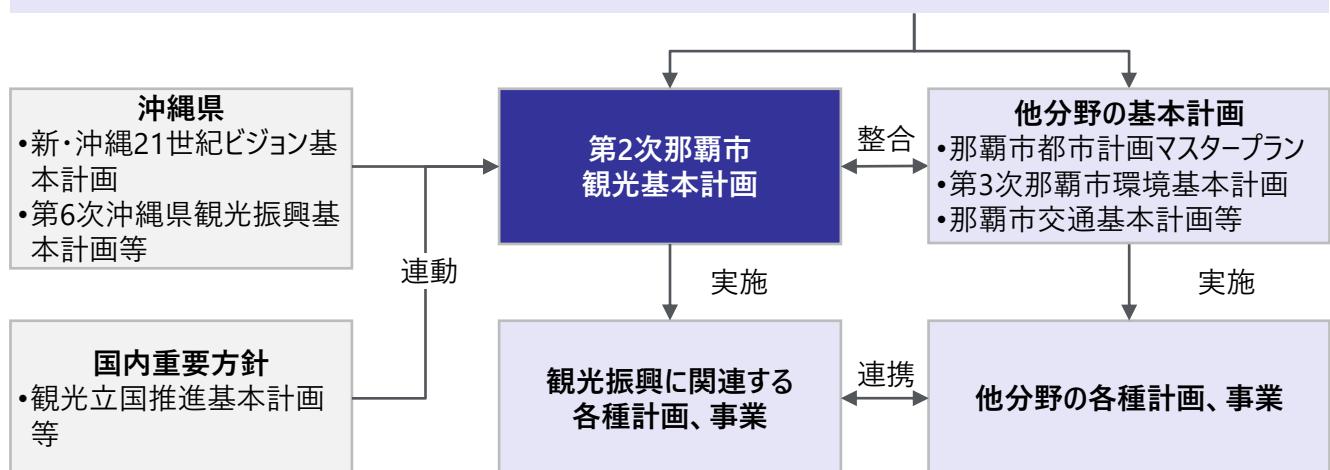
【関連する方向性】

▶観光と関連する「めざすまちの姿」

- ・ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまちNAHA

▶観光と関連する施策

- ・施策30：国際化に対応した観光環境の整備されたまちをつくる
- ・施策31：那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力のあるまちをつくる

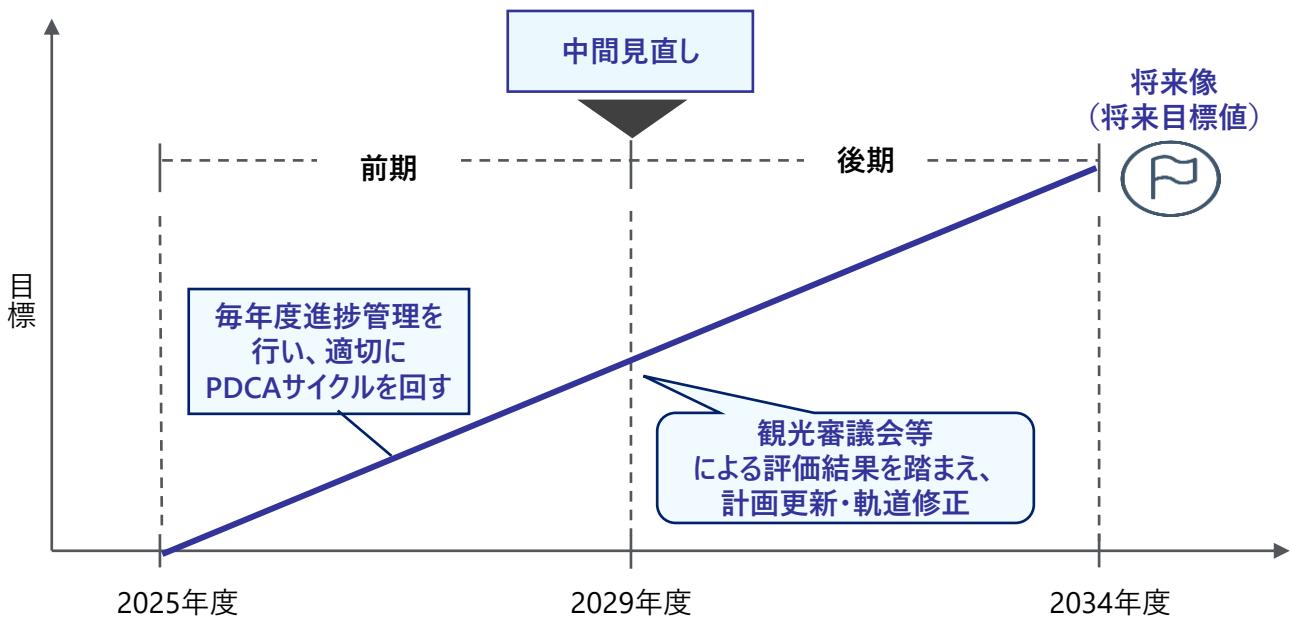


3. 計画期間

本計画の期間は、2025（令和7）年度から2034（令和16）年度までの10年間とし、前期と後期を設定します。なお、進捗管理は毎年度実施し、適切にPDCAサイクル*を回していきます。

並行して前期（2025年度～2029（令和11）年度）終了前に、観光を取り巻く環境変化や、審議会等による評価結果を踏まえ、必要に応じた計画更新を図り、後期（2030（令和12）年度～2034年度）へ繋げるものとします。

図表 前期・後期期間の推進イメージ



第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込むキーワード

1. 国内外の観光動向

1/7

(1) 概観

国内外の観光客の旅行需要は“モノからコトへ”と転じており、世界的に「持続可能な観光」への関心が高まっています。また、円安の進行やワーケーションなどの多様な滞在スタイルにより、インバウンド客や国内観光客が増加傾向にあります。一方で、観光産業の人材不足やオーバーツーリズムによる悪影響等の課題が顕在化しています。

政治的、経済的、社会的、技術的な国内外の観光動向を把握し、対応していくことが求められます。

図表 国内外の観光動向におけるPEST分析の結果

政治的要因 (Politics)	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持続可能な形での観光立国の復活に向けた観光立国推進基本計画の改定 ■ 政府による「観光地・観光産業における人材不足対策」や「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」の推進 ■ 特定技能2号の宿泊業への適用による観光産業を支える人材としての外国人技能者の受入 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 東アジアを中心とした国際情勢の変化による極端な入国減少
	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2022（令和4）年3月頃以降の円安の進行によるインバウンド需要の回復・増加 ■ 円安や燃油費高騰の影響による日本人観光客の海外旅行（アウトバウンド*）から国内旅行へのシフト ■ 政府一体となったMICE*誘致・開催支援及びMICE開催地としての地域の魅力向上・発信などによる国際競争力の向上 ■ 産学官民での連携の重要性の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物価高に伴う厳しい景況感による日本人の旅行控え
経済的要因 (Economy)	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワーケーション*及びノマド*等の多様な滞在スタイル ■ 海外旅行市場におけるサステナビリティ*に対する関心の高まり ■ インクルーシブ*の理念の浸透による、あらゆる観光客の受入が可能な体制整備の対応 ■ 在留外国人の増加に伴うVFR*（Visit Friends and Relatives）の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他産業との賃金格差や労働環境、人口減少・少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少等による観光産業を支える人材不足 ■ オーバーツーリズム*による自然環境・地域住民の生活への悪影響
	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタバース等、デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS*（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術の活用・DX*化の遅れに伴う生産性向上の遅れ
社会的要因 (Society)	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタバース等、デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS*（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術の活用・DX*化の遅れに伴う生産性向上の遅れ
	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタバース等、デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS*（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術の活用・DX*化の遅れに伴う生産性向上の遅れ
技術的要因 (Technology)	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタバース等、デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS*（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術の活用・DX*化の遅れに伴う生産性向上の遅れ
	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none"> ■ メタバース等、デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS*（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術の活用・DX*化の遅れに伴う生産性向上の遅れ

出典：Grand View Research「Adventure Tourism Market Size & Growth Report 2022-2030」（令和4年度）、TBF「アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」（令和4年度）、観光庁「観光立国推進基本計画」（令和5年）

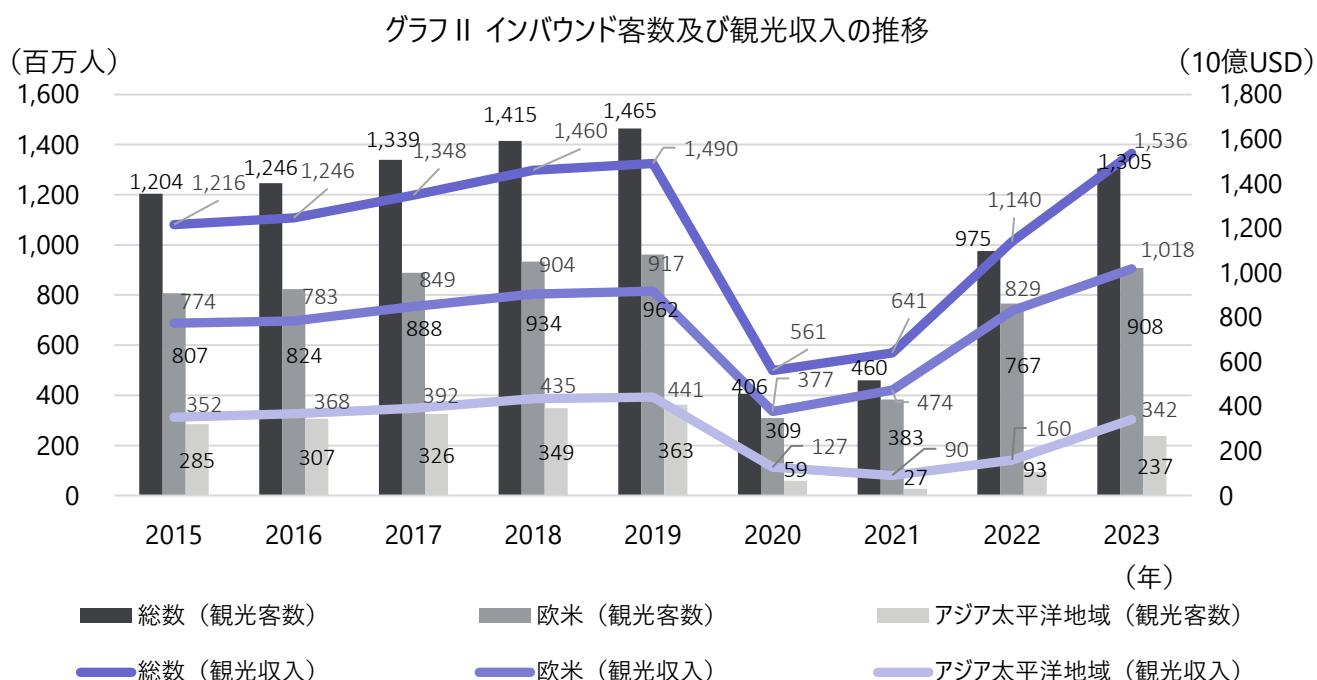
1. 国内外の観光動向

2/7

(2) 世界潮流

一時各国でコロナ防止策として導入された入国規制が緩和され、2021（令和3）年から徐々にインバウンド客数が増加傾向にあります。UN Tourism（国連世界観光機関）の調査では、2023（令和5）年のインバウンド客数は13億500万人（前年比約33.8%増）となり、コロナ前の2019（令和元）年水準の約9割まで回復し、今後も増加することが想定されます。また、インバウンド客数の増加に伴い、国際観光収入も増加しており、2023年の国際観光収入は1兆5,360億米ドル（前年比約34.7%増）でした（グラフII）。

近年、日本は世界からの注目度がさらに上がり、「世界で最も魅力的な国ランキング」で1位となることや、日本の首都である東京が上位にランクインする等、今後は更なるインバウンド客の増加が期待されます。



出典：UN Tourism dashboardをもとに作成

図表 世界で最も魅力的な国ランキング

Condé Nast Traveler Readers' Choice Awards 2023			
The Best Countries in the World (上位10位)		The Best Cities in the World (大都市部門 上位10位)	
1位：日本		1位：シンガポール	
2位：イタリア		2位：東京	
3位：ギリシャ		3位：ソウル	
4位：アイルランド		4位：ケープタウン	
5位：ニュージーランド		5位：シドニー	
6位：スペイン		6位：コペンハーゲン	
7位：ポルトガル		7位：オスロ	
8位：イスラエル		8位：バンクーバー	
9位：ノルウェー		9位：メルボルン	
10位：スイス		10位：エジンバラ	

出典：Condé Nast「Condé Nast Traveler」（令和4年度）

1. 国内外の観光動向

3/7

世界的に旅行形態として「持続可能な観光」への関心・需要が高まっています。UN TourismやWEF（世界経済フォーラム）等の観光に関する国際機関の方向性では共通して持続可能な開発目標（以下、「SDGs*」といふ。）の達成を目指しており、発行物等からは、サステナブルやインクルーシブ、レジリエントなどの社会課題に関連したキーワードが多く活用されています。また、自然や体験アクティビティに対する需要が増加しており、アドベンチャーツーリズム*市場は2021（令和3）年には2,821億米ドルであった中、その後の年間成長率は約15.2%であり、2030（令和12）年までには1兆米ドル以上に達すると予測されています¹。

アジア太平洋諸国や欧米豪の動向として、海外旅行に対する需要や、特定地域でしか体験できないコンテンツへの需要が両地域で高まっています²。また、アジア太平洋諸国では、海外旅行への意欲は次第に回復していることやリラックスや癒しを目的とした旅行を求める傾向も確認でき、プロモーションを強化しつつニーズを踏まえた観光資源の造成・磨き上げを行うことが考えられます。欧米豪の海外旅行への意欲はアジアに先駆けて回復しており、訪日旅行熱が高まっていることやサステナブルへの意識が高まっていることを踏まえた、プロモーションの強化や受入体制整備を進めていくことが考えられます。

図表 国際機関の発行物等から導出されるキーワード



¹ 出典：Grand View Research「Adventure Tourism Market Size & Growth Report 2022-2030」（令和4年度）

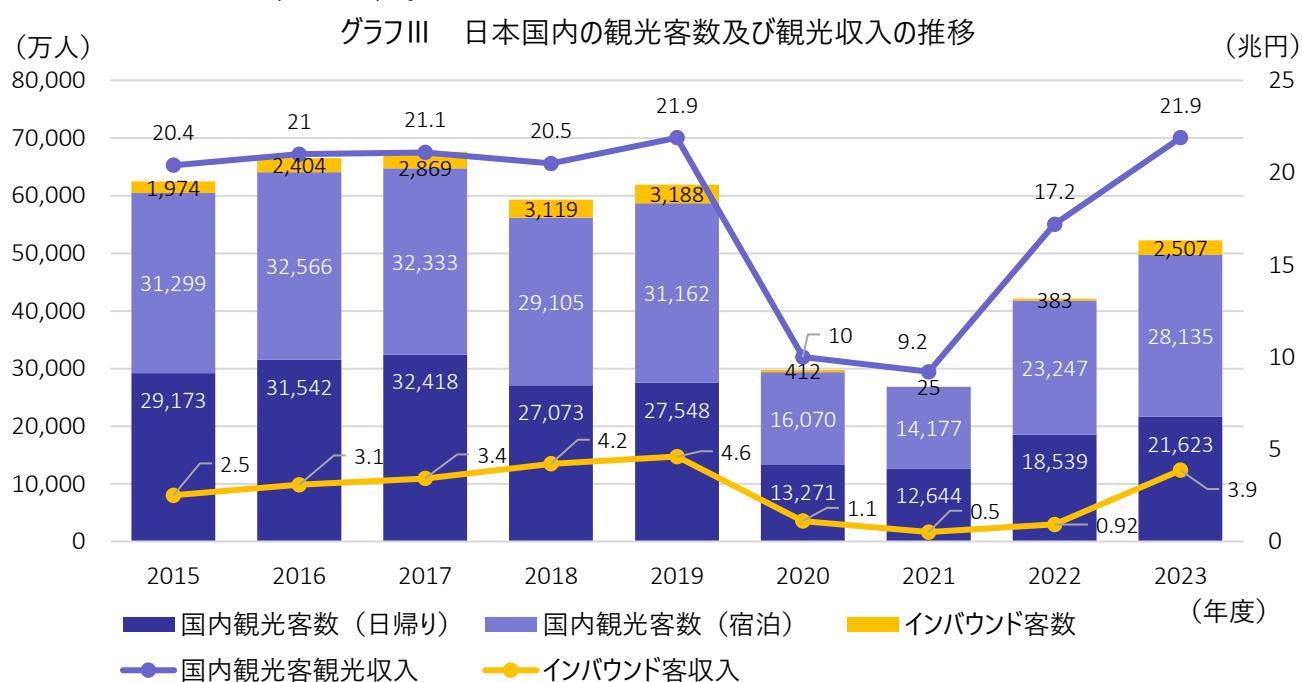
² 出典：DBJ・JTB「アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」（令和4年度）

1. 国内外の観光動向

(3) 国内動向

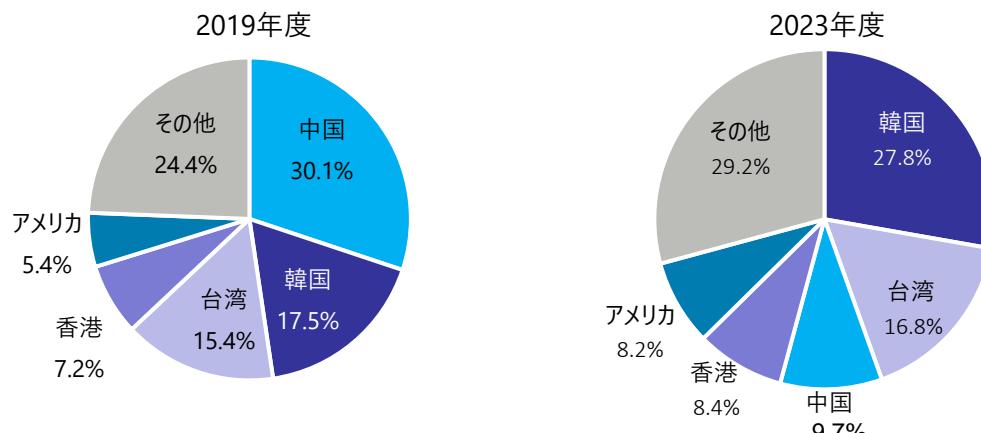
日本国内においてもコロナの影響により、2020（令和2）年度-2021（令和3）年度は観光客数・観光収入ともに落ち込みましたが国内観光客数は2022（令和4）年度から回復傾向にあり、2023（令和5）年度には国内観光客数（日帰り）は2億1,623万人（前年度比約16.6%増）、国内観光客数（宿泊）は2億8,135万人（前年比約21.0%増）となりました。また、2023年度にはインバウンド客数も回復し、インバウンド客数は2,507万人（前年比約554.6%増）となりました。2023年度時点においては、日本全国の観光客数の総数が5億2,265万人（前年度比約23.9%増）であり、2019（令和元）年度比約15.6%減の状態である（グラフIII）が、今後はコロナ前水準への回復及び拡大が見込まれます。

また、日本国内のインバウンド客の国別割合では、依然として韓国、台湾、中国、香港等の東アジア地域が大半を占めているものの、アメリカ等の割合がコロナ前より増えていることから、多様なインバウンド客のニーズに対応していくことが求められます（グラフIV）。



出典：観光庁「観光入込客統計」をもとに作成

グラフIV 国内のインバウンド客における上位5か国の構成割合（2019年度・2023年度）



出典：日本政府観光局(JNTO*)「訪日外客統計」をもとに作成

1. 国内外の観光動向

5/7

観光庁の観光立国推進基本計画の第4「観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため必要な事項」の4.「地域単位の計画の策定」では、『この基本計画や観光を巡る情勢の変化などを踏まえ、必要な計画の策定や見直しを行うことが望まれる』と記載されており、第4次観光立国推進基本計画においては国内動向に加えて、世界潮流を踏まえた改訂が行われたことがうかがえます。

第4次観光立国推進基本計画では、「持続可能な観光」、「消費拡大」及び「地方誘致促進」をキーワードに、"量から質"の向上を重視しています。

具体的に、第4次観光立国推進基本計画の目標では、新たに「訪日外国人旅行消費額単価」や「訪日外国人旅行者一人当たりの地方部宿泊数」等が設定されており、"質"を重視した目標が追加されています。また、新たに「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数」が目標として設定されており、観光現場における「持続可能性」を重要視した目標が追加されています。

図表 観光立国推進基本計画目標

第3次観光立国推進基本計画目標

1. 国内旅行消費額
2. 訪日外国人旅行者数
3. 訪日外国人旅行消費額
4. 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数
5. 訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数
6. アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合
7. 日本人の海外旅行者数

青字：新たに追加された目標

第4次観光立国推進基本計画目標

1. 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数
2. 訪日外国人旅行消費額
- 3. 訪日外国人旅行消費額単価**
- 4. 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数**
5. 訪日外国人旅行者数
6. 日本人の海外旅行者数
7. アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合
- 8. 日本人の地方部延べ宿泊者数**
9. 国内旅行消費額

出典：観光庁「観光立国推進基本計画」（令和5年）

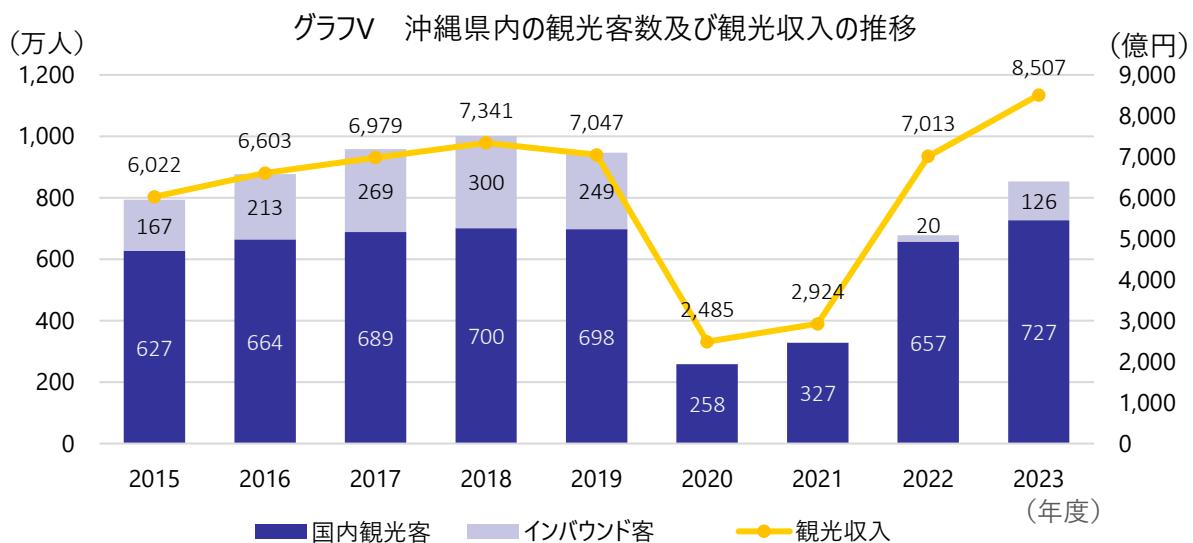
1. 国内外の観光動向

6/7

(4) 沖縄県の動向

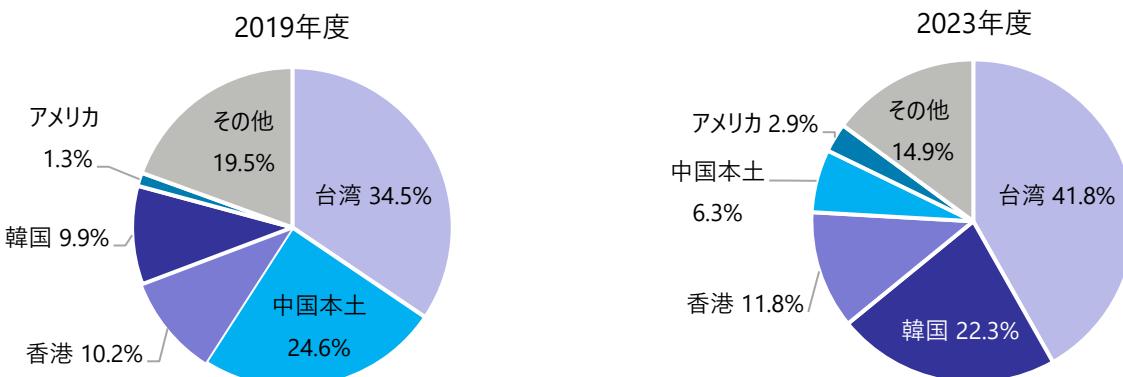
沖縄県内でもほかの地域同様に2020（令和2）年度-2021（令和3）年度の観光客が落ち込み、インバウンド客は0人となったものの、全国旅行支援やFIBAバスケットボールワールドカップ沖縄開催等が沖縄の観光回復の後押しとなり、国内観光客についてはコロナ前の水準まで順調に推移しており、インバウンド客についても段階的に回復してきています。2023（令和5）年度には沖縄県の観光客数は853万人（前年度比約25.9%増）で2019（令和元）年度の約90.1%まで回復しています。また、沖縄県における観光収入は、2023年度には8,563億円（前年度比約22.1%増）で2019年度の約21.5%上回っています（グラフV）。

沖縄県のインバウンド客の国別の割合は、2019年度は上位5か国が台湾、中国本土、香港、韓国、アメリカであったものの、2023年度には台湾、韓国、香港、中国本土、アメリカの順となっており、韓国の直行便の新設や中国本土からの訪日回復の遅れが沖縄県の動向の変化の要因として考えられます（グラフVI）。沖縄県では今後も沖縄県の第6次沖縄県観光振興基本計画にも記載の「フライ・アンド・クルーズ」を推進し、空の便は欧米豪等の直行便の新規開設や大型クルーズ船の受入強化に取り組むことで、さらなるインバウンド客の増加が見込まれます。



出典：沖縄県「入域観光客統計概況」をもとに作成

グラフVI 沖縄県のインバウンド客における上位5か国の構成割合（2019年度・2023年度）



出典：沖縄県「入域観光客統計概況」をもとに作成

1. 国内外の観光動向

7/7

沖縄県では、第6次沖縄県観光振興基本計画の中で新たに「持続可能」や「脱炭素」、「ICTの活用」等の記載が追加されています。上記から、沖縄県は世界や国の方針性等と同様に、「持続可能な観光」を重要視しており、また、地域一体とした観光地として、観光人材の不足をデジタル技術等で担っていくことを重要視していることがうかがえます。

図表 第6次沖縄県観光振興基本計画の概要

第6次沖縄県観光振興基本計画期間：10年間 | 2022（令和4）年度～2031（令和17）年度

【沖縄観光の目指す将来像】

「世界から選ばれる持続可能な観光地」

- 世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」 -

3つの方向性

- (1) 平和で生き生きと暮らせる県民、観光事業者、観光客の全てが幸せな三方よしの社会
- (2) 世界とつながり、時代を切り拓く「強くしなやかな自立型経済の構築」
- (3) 人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

基本施策 1 安全・安心・快適で SDGs に適応した観光地マネジメント

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 危機管理体制の見直し・強化 ➤ 県民生活・社会と調和の取れた観光振興の実現 ➤ サステナブルツーリズム*の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ レスponsシブルツーリズム*の推進 ➤ ユニバーサルツーリズム*の推進 ➤ 安定的な財源の確保と推進体制の構築 |
|---|--|

基本施策 2 多彩かつ質の高い観光に向けた DX の推進

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ ターゲットマーケティングと効率的なプロモーションの推進 ➤ デジタル化・観光 DX・ICT* の活用による利便性の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 外国人観光客への対応強化 ➤ 観光収入の確保と経済効果の発揮 |
|--|---|

基本施策 3 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 自然を活用したツーリズムの推進 ➤ 文化・伝統・芸能を活用したツーリズムの推進 ➤ 地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上 ➤ マリンタウン MICE エリアの形成を核とした戦略的な MICE の振興 ➤ 教育旅行・交流の推進 ➤ 空手ツーリズムの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ スポーツツーリズム*の推進 ➤ 沖縄の温暖な気候を活用したツーリズムとウェルネスツーリズム*の推進 ➤ 質の高いクルーズ観光体験の推進 ➤ カップルアニバーサリーツーリズム*の展開 ➤ ICT を活用した新たな観光コンテンツの推進対応強化 |
|---|---|

基本施策 4 基盤となる旅行環境の整備

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 空港 ➤ 宿泊施設 ➤ 港湾 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 抛点整備 ➤ 観光二次交通 * ➤ 沖縄らしい風景づくり |
|--|--|

基本施策 5 脱炭素・グリーンリカバリー*への積極的な対応

基本施策 6 人材育成と人材確保の推進

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➤ 質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保 | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 観光業界における雇用環境の改善 |
|--|---|

青字：世界や国の方針性と関連する内容

太字：第6次沖縄県観光振興基本計画にて新しく登場した内容

出典：沖縄県「第6次沖縄県観光振興基本計画」（令和4年）

第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込むキーワード

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

1/8

(1) 那覇市の観光概観

那覇市の観光特性として、那覇空港・那覇港が市内に位置しており沖縄のゲートウェイとして来訪者が多く集まること、宿泊・飲食・観光施設等が充実していること、伝統芸能や伝統工芸が豊富であること等が強みであると考えられます。一方で、滞在時間が短いこと、交通渋滞でバスの定時運行に影響があり利便性が悪くなっていることやマナー違反等の問題が多いこと、人材不足により観光需要に対する供給が十分でないこと等が弱みであると考えられます。

社会経済の情勢を踏まえると、コロナ感染者数が減少していることや、首里城正殿などの復元等の取組により、今後は更なる観光客数の増加が見込まれます。一方で、観光地間の誘客競争の激化や国際情勢の変化、物価高の深刻化等の脅威も想定されることから、一層地域一体として課題に対処し、観光振興を推し進めることが重要と考えます。

図表 内部環境及び外部環境を踏まえたSWOT分析

内部環境 (那覇市の 観光特性)	強み Strength	弱み Weakness
	機会 Opportunity	脅威 Threat
	①那覇空港・那覇港という交通結節点が市内に位置していること ②宿泊施設が多く充実していること ③国際通りをはじめとして、飲食店が多く充実していること ④都市型観光資源（博物館・美術館、劇場等）と文化的な観光資源（首里城公園、波上宮、識名園等）が充実しており、コンパクトに集積していること ⑤エイサー・空手・琉球舞踊・組踊などの伝統芸能や壺屋焼・琉球ガラスなどの伝統工芸があり、観光資源が豊富であること	⑥平均宿泊数が1.58日（2023（令和5）年度）と、短期間の滞在が多いこと ⑦バスにおいては、交通渋滞により定時運行に影響が出ている。モノレールにおいては通勤通学時に混雑が発生している。 ⑧道路機能に対する交通量の容量超過などにより、頻繁に交通渋滞が発生していること ⑨騒音やごみのポイ捨てなどのマナー違反がみられる ⑩観光産業全体で人材が不足していること

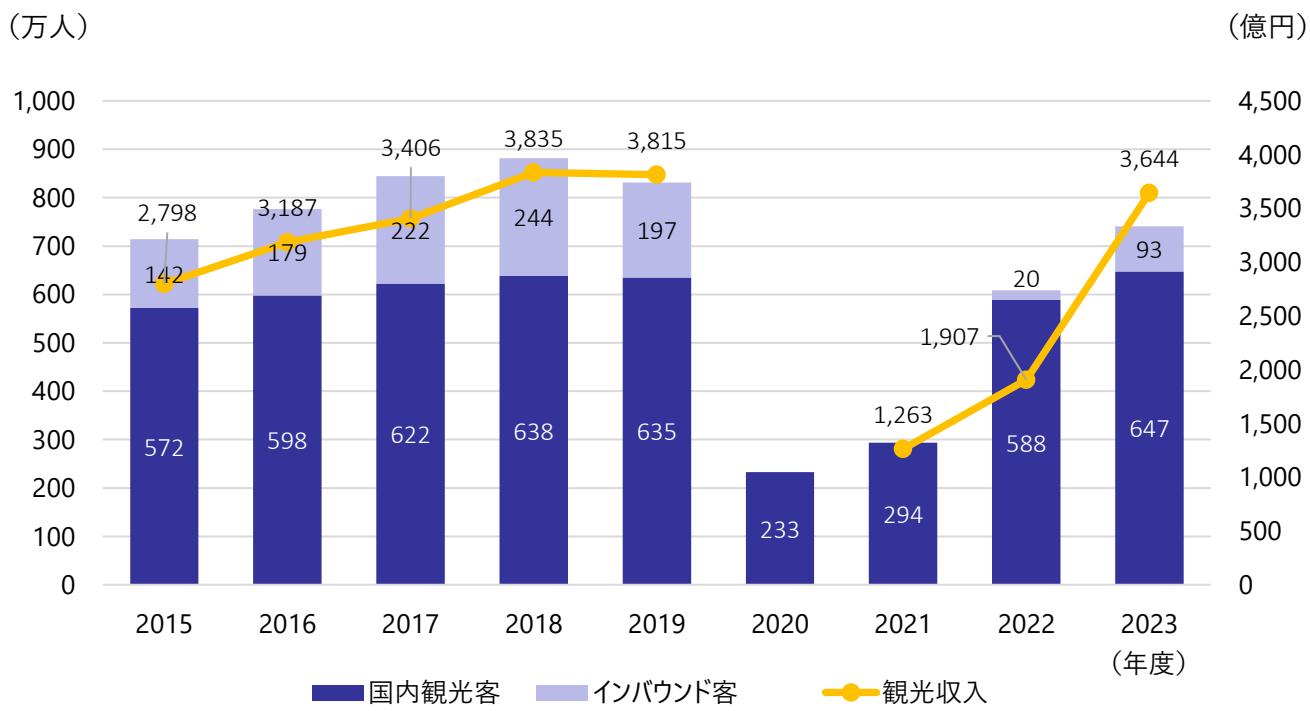
2. 那覇市の観光を取り巻く現状

(2) 那覇市の観光実態

那覇市への入込観光客数は、コロナの影響で2020（令和2）年度-2021（令和3）年度は大幅に減少し、一時は入国規制等でインバウンド客が0人となりました。しかし、2022（令和4）年度からコロナの入国規制が緩和されはじめ、2023（令和5）年度には那覇市の観光入込客数は約741万人（前年比約21.8%増）で2019（令和元）年度の約89.1%まで回復しています。また、那覇市における観光収入も同様に2020年度-2021年度に落ち込んだものの、2023年度には3,644億円（前年比約91.1%増）で2019年度の約95.5%まで回復しています（グラフVII）。

第2クルーズバースの供用開始などにより、一層国内観光客及びインバウンド客の双方が増えることが予想される中、今後は空港や港だけではなく、地域一体とした受入体制の強化を推し進めていくことが必要です。

グラフVII 那覇市における入込観光客数及び観光収入



出典：那覇市「那覇市の観光統計」をもとに作成

※2020年度は観光収入の調査実施なし

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

3/8

那覇市では、前計画策定時の2015（平成27）年度と2023（令和5）年度を比較すると、市内の宿泊施設数は約140.1%増加しており、市内の収容人員数も約75.8%増加しています（グラフVIII）。

コロナの影響により、国内観光客の年間延べ宿泊数は一時落ち込んだものの、2023（令和5）年度には808万人泊（前年度比約63.2%増）と過去10年の最高値まで成長しました（グラフIX）。一方で、国内観光客の市内の平均宿泊数は1.58日（前年度比約3.9%増）と、横ばいの数値となっています（グラフX）。

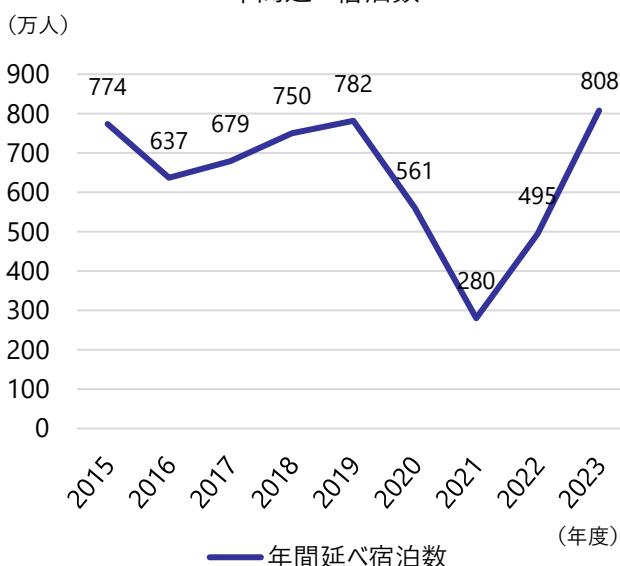
上記のように宿泊施設数・収容人員数及び延べ市内宿泊者数が増えている反面、市内平均宿泊数が思うように伸びていないため、観光客に那覇市への滞在時間を延長してもらうために、宿泊事業者だけでなく、飲食・小売事業者や旅行・MICE関連事業者等を含めた地域一体での取組が必要です。

グラフVIII 那覇市における宿泊施設数及び収容人員数の推移



出典：那覇市「那覇市の観光統計」、沖縄県「宿泊施設実態調査」をもとに作成

グラフIX 那覇市における国内観光客の年間延べ宿泊数



出典：那覇市「那覇市の観光統計」をもとに作成

グラフX 那覇市における国内観光客の平均宿泊数



出典：那覇市「那覇市の観光統計」をもとに作成

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

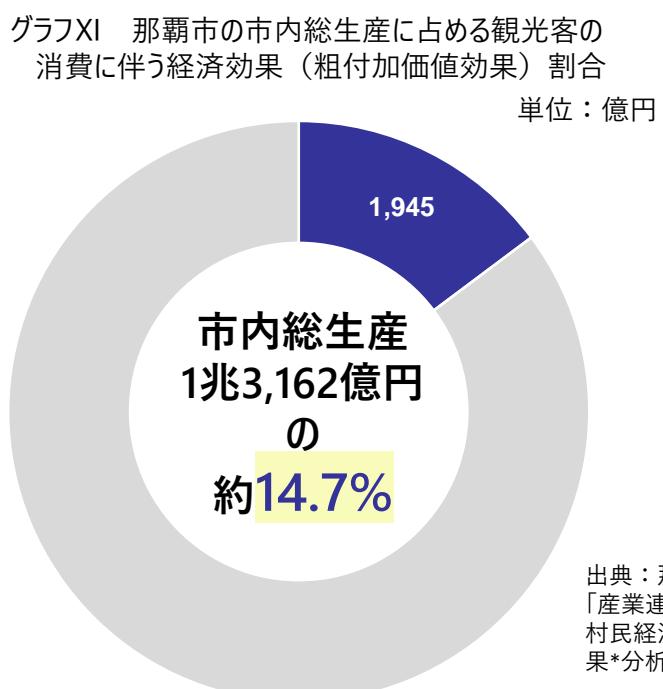
4/8

2023（令和5）年度に那覇市へ来訪した観光客による市内での消費が観光産業やその他の関連産業へ及ぼした経済効果は約3,648億円と推計されました。（詳細は下記参考を参照）

上記の経済効果のうち、雇用者の所得や企業の利益等の新たな価値として生じた粗付加価値分を抽出すると、約1,945億円と推計されました。ここで示す粗付加価値は市内総生産*とほぼ対応しており、市内総生産は那覇市における1年間の経済活動全体の成果を推計したものとなります。観光振興により生じた付加価値が那覇市の市内総生産に占める割合を算定することで、那覇市の経済活動における影響度を推計することができます。

那覇市の市内総生産の1兆3,162億円（2021（令和3）年度）のうち、観光振興は上記で示した約1,945億円を占めており、那覇市の経済活動の約14.7%に相当します（グラフXI）。

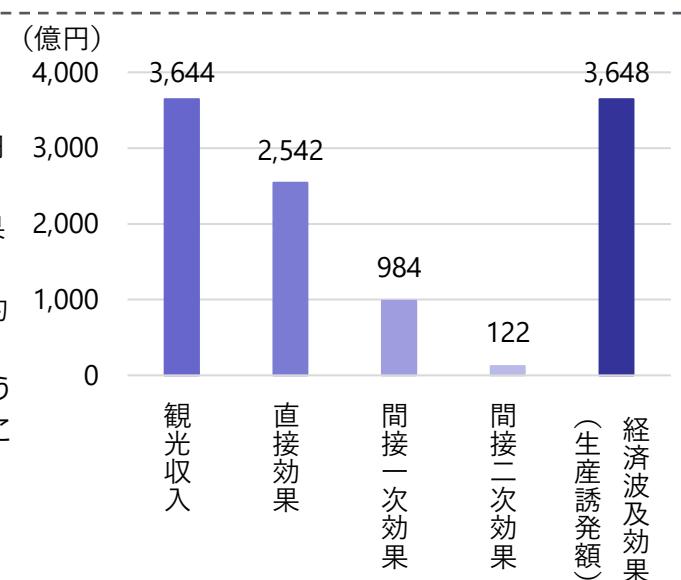
※本調査に必要となる数値は推計値を採用しており、あくまで参考値としての取り扱いであることに留意



出典：那覇市「那覇市の観光統計」「産業連関表」、沖縄県「沖縄県市町村民経済計算」、環境省「経済波及効果*分析ツールをもとに作成

【参考】那覇市の観光振興における経済波及効果

那覇市に来訪した国内観光客が2023年度に市内で消費した金額（観光収入）を合計すると3,644億円と推計されます。この観光収入をもとに環境省が公開している経済波及効果分析ツールを用いて経済波及効果を推計すると、市外へ流失する分を除いた「直接効果」は約2,542億円となります。観光客からの収入を直接的に享受する産業は宿泊業や飲食業等が中心となります。これらの産業が市内の様々な事業者から仕入を行うことで、幅広い産業に対して経済効果を波及させます。これらの波及効果を合計すると、観光消費が那覇市にもたらす経済波及効果（生産誘発額）は約3,648億円と推計されます。



2. 那覇市の観光を取り巻く現状

5/8

(3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

本項は、2023（令和5）年度に那覇市が実施した「基礎調査」の結果をもとに記載しています。

本項に抜粋した調査の概要は以下のとおりです。

①観光客（国内居住者）アンケート

調査対象：全国20歳～79歳の、国内に居住する「旅行先として那覇市へ行ったことのある」個人
調査方法：Webアンケート調査
調査実施期間：2023年9月20日から9月25日
有効回答数：2,000件

③事業者アンケート

調査対象：那覇市内の観光関連事業者*
調査方法：Webアンケートフォームを作成し、QRコードを紙にて郵送したうえでメールも配信
調査実施期間：2023年9月4日から10月16日
有効回答数：111件

②観光客（インバウンド）アンケート

調査対象：空・海路で那覇に訪れたインバウンド客
調査方法：書面による対面アンケート調査
調査実施期間：2023年9月から11月の13日間
有効回答数：814件（空路：404件、海路：414件）

④市民アンケート

調査対象：那覇市内に居住する20歳以上の市民
調査方法：住民基本台帳から無作為抽出を行い、郵送アンケート調査（Web・書面対応）
調査実施期間：2023年8月30日から10月6日
有効回答数：391件

那覇市の魅力（イメージ）において、国内観光客は「自然」、「料理」、「伝統・文化」が上位3つである一方で、インバウンド客（空路）は「自然」、「伝統・文化」、「料理」、インバウンド客（海路）は「伝統・文化」、「施設」、「自然」がそれぞれ上位3つにあがりました。

また、那覇市でやってみたいことにおいては、国内観光客は「食体験コンテンツ」、「自然体験コンテンツ」、「文化・歴史体験コンテンツ」が上位3つである一方で、インバウンド客（空路）は「食体験コンテンツ」、「文化・歴史体験コンテンツ」、「自然体験コンテンツ」、インバウンド客（海路）は「文化・歴史体験コンテンツ」、「食体験コンテンツ」、「自然体験コンテンツ」がそれぞれ上位3つにあがりました。

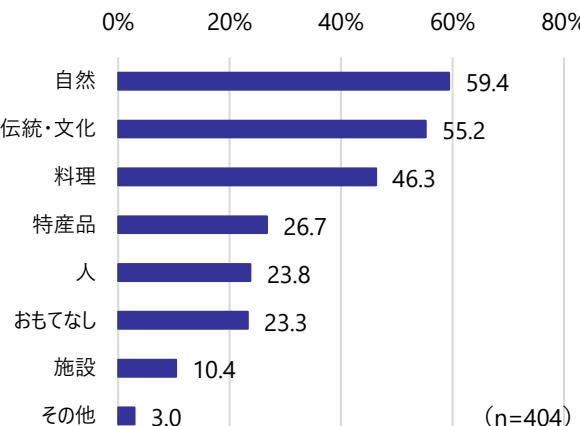
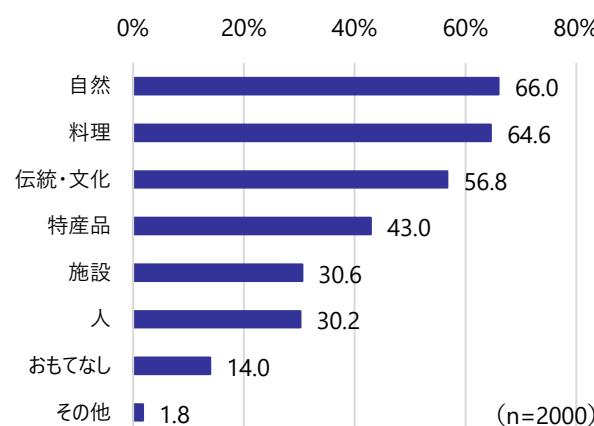
国内外の観光客では体験コンテンツに対するニーズがやや異なるため、観光客の満足度を上げるためにそれぞれのニーズに対応するコンテンツを開発・磨き上げることが重要であると考えます。

— 国内観光客の思う那覇市の魅力(イメージ) —

あなたが思う観光地としての"那覇市の魅力（イメージ）"を教えてください。（当てはまるものを全て選択）

— インバウンド客(空路)の思う那覇市の魅力(イメージ) —

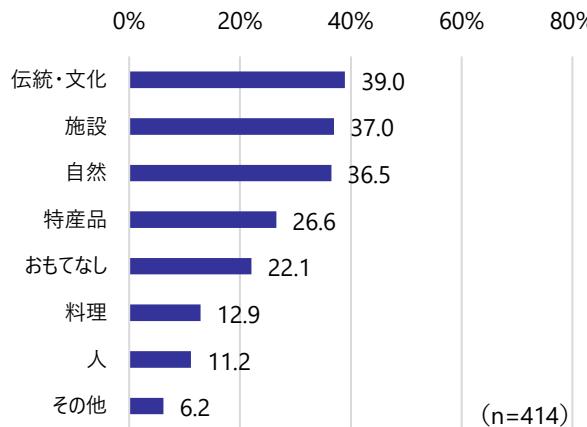
あなたが思う観光地としての"那覇市の魅力（イメージ）"を教えてください。（当てはまるものを全て選択）



2. 那覇市の観光を取り巻く現状

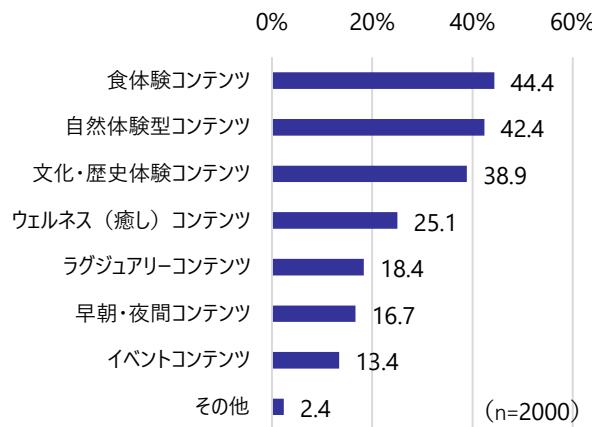
- インバウンド客(海路)の思う那覇市の魅力(イメージ) -

あなたが思う観光地としての"那覇市の魅力(イメージ)"を教えてください。(当てはまるものを全て選択)



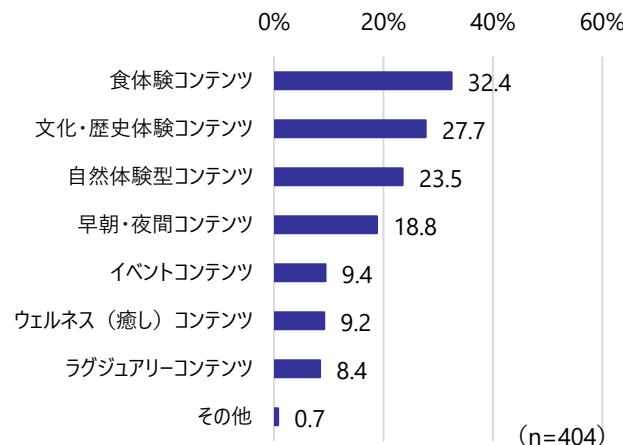
- 国内観光客の思う那覇市でやってみたいこと -

今後、那覇市では新たな観光コンテンツを拡充させていきたいと考えています。次の中から、那覇市でやってみたいことを教えてください。(当てはまるものを全て選択)



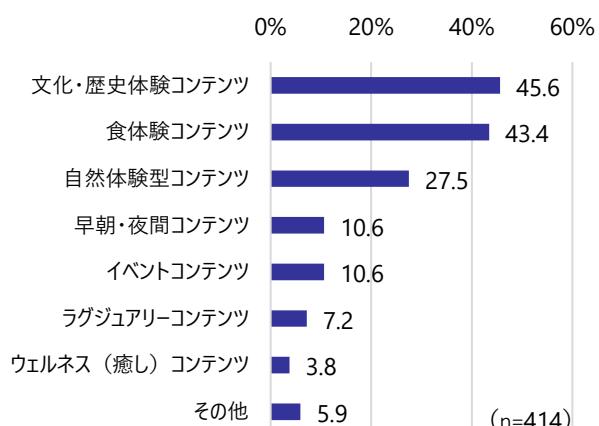
- インバウンド客(空路)の思う那覇市でやってみたいこと -

今後、那覇市では新たな観光コンテンツを拡充させていきたいと考えています。次の中から、那覇市でやってみたいことを教えてください。(当てはまるものを全て選択)



- インバウンド客(海路)の思う那覇市でやってみたいこと -

今後、那覇市では新たな観光コンテンツを拡充させていきたいと考えています。次の中から、那覇市でやってみたいことを教えてください。(当てはまるものを全て選択)



2. 那覇市の観光を取り巻く現状

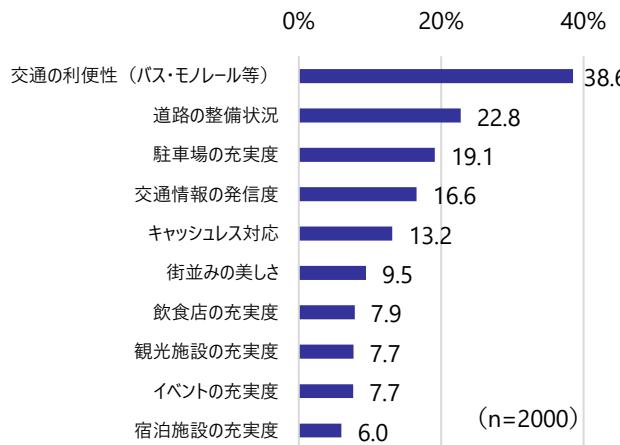
7/8

那覇市の改善すべき点において、国内外観光客は「交通の利便性（バス・モノレール等）」、「道路の整備状況」、「駐車場の充実度」とどれも交通関連の課題を挙げている一方で、インバウンド客の空路・海路ともに「外国語（人）対応」、「交通の利便性（バス・モノレール等）」、「誘客宣伝」を課題に挙げています。

国内観光客およびインバウンド客のニーズが異なるため、それぞれの課題に対応していく必要があるものの、中でも「交通の利便性（バス・モノレール等）」においては国内外双方の観光客からの課題意識が強いことから、早期に対応し、改善すべきであると考えます。

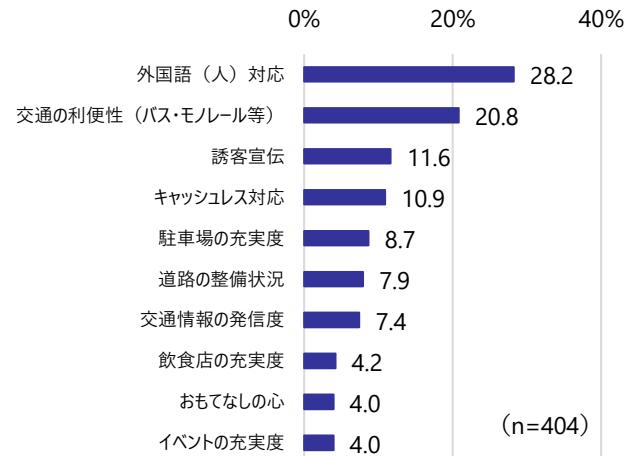
—— 国内観光客の思う那覇市の改善すべき点 ——

今後、那覇市が観光地として改善すべき（足りていない）と思う点について教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）



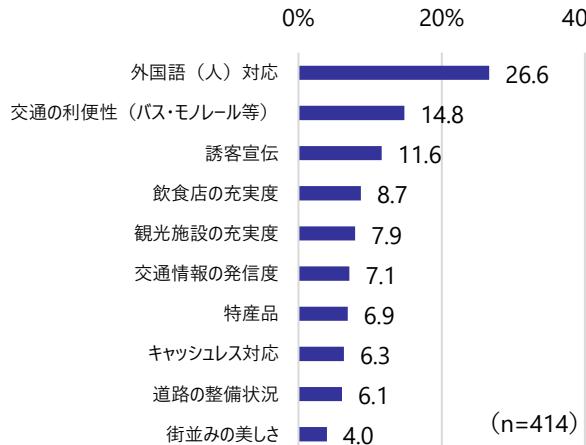
—— インバウンド客(空路)の思う那覇市の改善すべき点 ——

今後、那覇市が観光地として改善すべき（足りていない）と思う点について教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）



—— インバウンド客(海路)の思う那覇市の改善すべき点 ——

今後、那覇市が観光地として改善すべき（足りていない）と思う点について教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）



2. 那覇市の観光を取り巻く現状

8/8

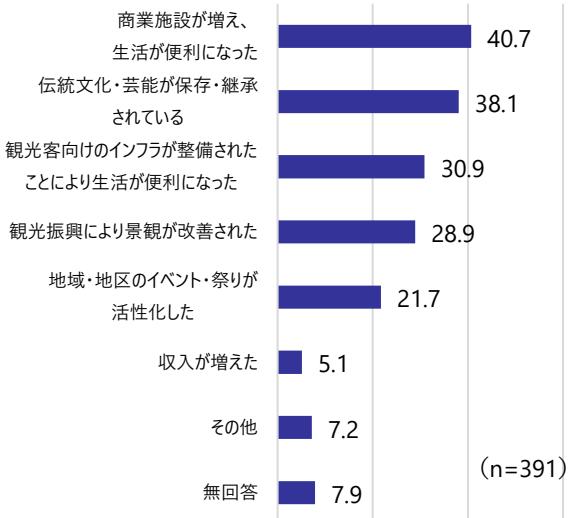
観光振興により、市民は「商業施設が増え、生活が便利になった」、「伝統文化・芸能が保存・継承されている」等のプラスの影響を感じています。一方で、観光振興によって「観光客が増え、交通機関が混雑する場面が増えた」、「観光客による騒音・ゴミ・無断駐車等の問題が増えた」等のマイナスの影響を高い割合で感じており、市民と観光振興の調和のためにも改善に取り組む必要性があります。

また、コロナ禍前の2018（平成30）年度那覇市市民意識調査でも、プラスの影響「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」や、マイナスの影響「レンタカーの増加、モノレール来客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」等の回答傾向は本調査と大きな変化はありませんでした。

—— 市民が感じる観光振興によるプラスの影響 ——

あなたが住む地域において、観光振興によるプラスの影響があると思うものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

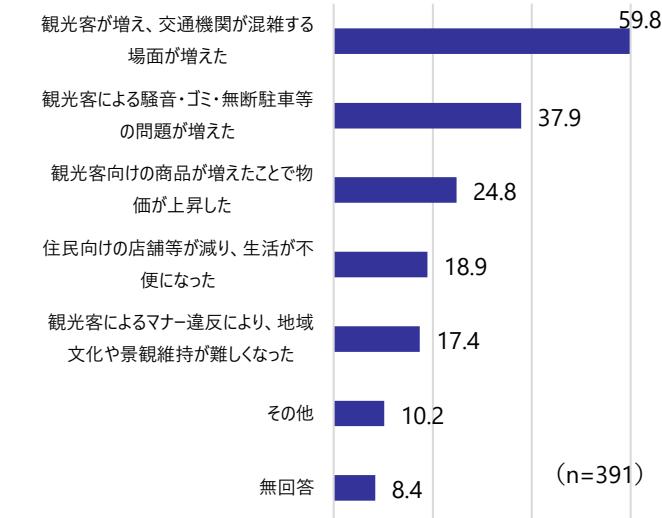
0% 20% 40% 60%



—— 市民が感じる観光振興によるマイナスの影響 ——

あなたが住む地域において、観光振興によるマイナスの影響があると思うものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

0% 20% 40% 60%

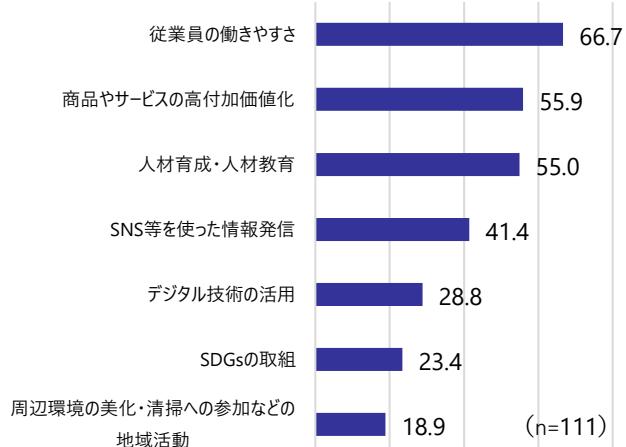


那覇市の観光関連事業者は、「従業員の働きやすさ」や「人材育成・人材教育」等、最大の課題である「人手不足」の改善に向けた取組に力を入れています。コロナ前以上の回復のためにも、観光関連事業者の人手不足を解消するための取組支援が今後必要であると考えます。

—— 事業者が経営面で力を入れている分野 ——

現在、経営面で力を入れている分野を教えてください（複数回答可）

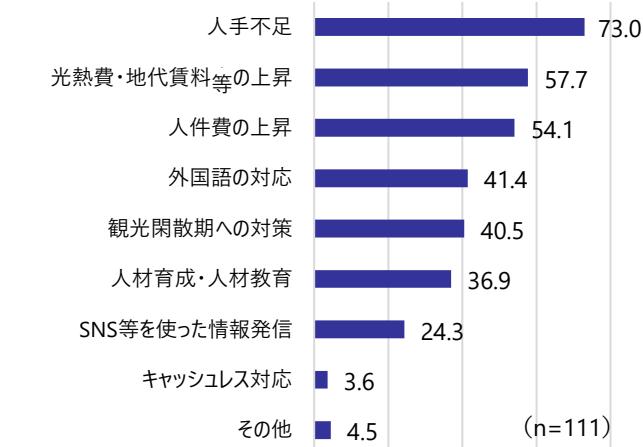
0% 20% 40% 60% 80%



—— 事業者が経営面で直面している課題 ——

観光客を対象とした経営面での課題について教えてください（複数回答可）

0% 20% 40% 60% 80%



第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込むキーワード

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

1/4

（1）目標値に関する振り返り

前計画では、国内観光客の「観光収入」、「観光客一人あたり市内消費額」、「延べ市内宿泊客数」の3つの目標値を設定し、目標の達成に向けて観光振興における取組を展開してきました。また、2020（令和2）年度からのコロナの影響を踏まえ、2021（令和3）年11月にコロナ期戦略を策定し、コロナからの回復を目標に取組を展開しました。

前計画で設定したいずれの項目も前計画の目標を達成することはなかったものの、観光収入及び観光客一人あたり市内消費額の目標達成度は80%前後となり、当初の目標達成に近い数値となりました。また、延べ市内宿泊客数の前計画の目標達成度は約62.2%だったものの、コロナ期戦略の目標を約3.3%超える状況で達成し、コロナ前水準への回復だけでなく、コロナ前を上回る成長があったことが明らかになりました。

図表 前計画とコロナ期戦略の将来目標値の達成状況

	2015年度	2019年度	2020年度	2023年度	前計画の目標 (コロナ期戦略)	前計画の目標達成度 (コロナ期戦略)
観光収入	2,798億円	3,815億円	— ※コロナ禍のため 取得不可	3,644億円	4,500億円 (3,815億円)	81.0% (95.5%)
観光客一人あたり 市内消費額	83,817円	74,156円	— ※コロナ禍のため 取得不可	71,229円	90,000円 (74,156円)	79.1% (96.1%)
延べ市内宿泊客数	774万人泊	782万人泊	561万人泊	808万人泊	1,300万人泊 (782万人泊)	62.2% (103.3%)

出典：那覇市「那覇市の観光統計」をもとに作成

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

2/4

（2）那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り

前計画では、計7つの取組の展開をもとに観光振興に取り組んできており、本計画の取組の内容において具備する文言を整理しています。

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

取組の展開①

国際リゾート沖縄の拠点都市としての機能・魅力の充実

推進してきた主な取組

- ・ クルーズ船の受入体制の構築や歓迎セレモニーの実施
- ・ 「那覇市都市型MICE振興戦略」の策定等のMICE観光誘致のための検討促進

今後の方向性

- ・ 交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化、MICEの誘致・機能強化・受入体制を整備する
- ・ 那覇市への訪問機会を高めるために、周辺地域の魅力と掛け合わせた滞在価値を造成する
- ・ 國際的なリゾートとしてのプレゼンスを確立していくために、那覇らしい街並みや環境づくり等の取組を推進する

取組の展開②

沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上

推進してきた主な取組

- ・ 那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上に向けた補助金・支援金の提供

今後の方向性

- ・ 行政、観光関連事業者、那覇市観光協会、教育機関*、市民の地域一体で推進する
- ・ 那覇ならではの歴史・文化・特産物などを保全し次世代に継承しながら、資源を活かしたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ等の取組を継続的に推進する

取組の展開③

那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化

推進してきた主な取組

- ・ 防災・感染症対策等の定期的な実施
- ・ ユニバーサルツーリズムに向けたソフト・ハード面でのバリアフリーの整備及び理解醸成

今後の方向性

- ・ 関係者間での連携強化を図り地域一体となり取組を推進する
- ・ 誰もが安全・安心に観光できる環境整備を行うことを念頭に、SDGsや持続可能性に配慮したハード・ソフト両面の体制整備を推進する
- ・ 質の高い観光に向けて、観光関連事業者や市民の意識醸成等の取組を継続的に推進する

取組の展開④

市内回遊と交通ネットワークの連携・整備

推進してきた主な取組

- ・ 貸切バス乗降場・待機場などによる混雑緩和
- ・ モノレール駅周辺におけるシェアサイクル*駐輪場設置の促進

今後の方向性

- ・ 那覇空港や那覇港からの二次交通の利便性を向上させる取組を継続的に推進する
- ・ 公共交通機関（バスやゆいレールなど）、シェアサイクル、歩行などの移動手段の充実化や交通情報の積極的な発信等にかかる取組を継続的に推進する

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

3/4

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

取組の展開⑤

那覇市観光の内外への情報発信強化

推進してきた主な取組

- ・ 那覇市観光協会ホームページの機能強化の支援
- ・ 情報発信の強化のため、まちなかに大型ビジョンの設置やデジタルサイネージ等の連携

今後の方向性

- ・ 那覇市観光の内外への情報発信にあたっては、SNS、アプリ、ICT技術、AI*等のデジタル技術の利活用の推進を図る
- ・ 那覇市の観光客のニーズに合わせた情報発信を継続的に推進する

取組の展開⑥

外国人観光客への体制整備

推進してきた主な取組

- ・ 観光案内所の運営の支援

今後の方向性

- ・ 豊富なデータを利用し、データ分析を通じた観光客のニーズを把握したうえで、適切なプロモーションや情報発信を行いインバウンド等の誘客をする
- ・ 来訪時の満足度向上に向けて多言語対応やWi-Fi環境整備、キャッシュレス決済整備等の受入体制の強化を図るための取組を継続的に推進する

取組の展開⑦

観光産業の持続的な発展支援

推進してきた主な取組

- ・ 環境基本計画の策定等、環境保護に対応した取組の展開
- ・ 観光理解醸成のための情報発信の実施

今後の方向性

- ・ 持続的な観光産業の発展に向けて、継続して支援を提供する
- ・ 観光振興と市民生活の調和や、環境への配慮をしつつ、観光産業の発展支援を促すような取組を継続的に推進する

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

4/4

（3）那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

コロナ期戦略では、計4つの戦略の柱をもとに観光振興に取り組んできており、本計画の取組の内容において具備する文言を整理しています。

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

戦略の柱 ア	市民・観光客双方が安全安心な観光地
推進してきた主な取組	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 国や県のガイドラインに従いながら感染症対策を行い対策内容を周知 動向を注視しつつ、5類感染症として適切な対応を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症の蔓延のリスクを踏まえたうえで、必要に応じて感染症対策や対策内容の周知を行う
戦略の柱 イ	観光関連産業に対する支援
推進してきた主な取組	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 給付金による支援や既存事業の業態転換や、市民や県民にクーポンや商品券の配布等の取組を展開 早朝・夜間における観光コンテンツの創出や地域回遊の取組の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 観光関連事業者の売上や経営状況が回復しており、追加支援施策の必要性が低くなったため、地域事業者の自走を支援するための取組を実施する 継続的に観光コンテンツの創出・磨き上げ、プロモーション、保全・継承等を適切な支援方法を検討し実行する
戦略の柱 ウ	新しい旅行スタイルの取り込み
推進してきた主な取組	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ワーケーション等の需要取り込みに係る取組の展開 市民や県民にクーポンや商品券の配布等の取組を展開 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響による旅行スタイルの変化やニーズの変化を適切に把握したうえで、観光消費額が多く高い経済効果が見込まれるものに注力して取組を行う
戦略の柱 エ	デジタル技術活用促進
推進してきた主な取組	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 各種調査の実施による観光客に関連するデータからニーズや動向等の把握 	<ul style="list-style-type: none"> より効率的に、より適切に事業を推進していくためにはデジタル技術の活用が非常に重要であるため、観光関連事業者に対して充分に支援する

第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 那覇市観光基本計画（前計画）の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 那覇市観光基本計画（前計画）の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込むキーワード

4. 計画改定に取り込むキーワード

前頁までの「国内外の観光動向から取り込む視点」、「那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえた課題」、「前計画の振り返りを踏まえた主要課題」及び「コロナ期戦略の振り返りを踏まえた課題」でそれぞれ抽出されたキーワードを、本計画に取り込む視点のキーワード及び分野横断型重点キーワードに整理しました。

取り込む視点の分野横断型重点キーワードは、「持続可能な観光」、「デジタル技術の活用」、「ステークホルダーとの連携」であり、第3章に記載の「事業化にあたっての核とする観点」となる項目として整理しています。また、取り込む視点のキーワードは第3章における「取組の柱」を抽出するための要素として整理し、本計画内で具備しています。

図表 国内外及び那覇市の観光動向等を踏まえて本計画内に具備するキーワード

<p>【国内外の観光動向から取り込む視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の持続可能な発展を見据えた観光振興 ➢ 地域一体での取組推進 ➢ 観光産業の再生・観光産業を担う人材の育成・確保 ➢ 多様な滞在スタイルへの対応 ➢ 産学官民の連携 ➢ 回復するインバウンド客・国内観光客の需要の取り込み ➢ MICEの機能強化 ➢ デジタル技術の活用、観光DXの促進 	<p>【那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ インバウンド客の増加を鑑みた交通結節点の機能強化 ➢ 観光客のニーズを踏まえ観光資源を活かしたコンテンツの創出 ➢ 那覇ならではの観光資源を活かした独自のプロモーションの実施 ➢ 観光客のニーズに合致した体験の提供による滞在時間の延伸 ➢ 交通利便性の向上・混雑や渋滞緩和による周遊促進 ➢ 観光産業の人材の育成・確保による供給力の強化 ➢ 市民の生活への配慮、観光振興に対する理解醸成
<p>【前計画の振り返りを踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化 ➢ MICEの誘致・機能強化・受入体制整備の強化 ➢ 二次交通の利便性向上 ➢ 交通情報の発信 ➢ 那覇らしい街並みや環境づくり ➢ 歴史・文化・特産物等の保全・継承 ➢ 観光客のニーズを踏まえたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ ➢ SDGsや持続可能性に配慮した観光産業の発展 ➢ デジタル技術の利活用 ➢ プロモーションや情報発信による誘客促進 ➢ 地域一体推進 ➢ 観光振興と市民生活の調和 	<p>【コロナ期戦略の振り返りを踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 安全・安心な観光振興のための周知促進 ➢ 歴史・文化・特産物等の保全・継承 ➢ 観光客のニーズを踏まえたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ ➢ デジタル技術の利活用

取り込む視点の

分野横断型重点キーワード

持続可能な観光

デジタル技術の活用

ステークホルダーとの連携

取り込む視点の

キーワード

MICEの機能強化

交通の機能強化

滞在時間延長・周遊促進

プロモーション

観光産業の経営・観光客の受入基盤の強化

多様なニーズへの対応・取り込み

地域一体での推進

市民の生活と観光振興の調和

第3章 将来像と取組の柱

1. 目指す将来像
2. 「取組の柱」と「核とする観点・推進力」
 - (1) 取組の柱
 - (2) 核とする観点・推進力
3. 目標値
4. 観光ゾーニング
 - (1) 観光ゾーニングの目的と位置づけ
 - (2) 観光ゾーニングの基本的な考え方

1. 目指す将来像

本計画は、第5次那覇市総合計画（2018（平成30）年度～2027（令和9）年度）のめざすまちの姿や施策の方向性を踏まえ、更なる観光振興及び地域経済の活性化を推進し、観光交流都市である那覇の将来像を実現させるために策定するものです。

【将来像】

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

前計画では、亜熱帯気候のリゾート沖縄の拠点都市としての機能を充実させる一方で、世界遺産の首里城跡をはじめ琉球王朝を今に伝える歴史・文化・生活・産業に培われた独自の観光資源に溢れた『観光交流都市』を目指していました。また、行政、市民、民間事業者が那覇市の魅力や個性を誇りに持ちつつ、さらに磨き上げ、国内外の観光客誘致に活用することで人も、まちも活き活きとした地域社会を目指していました。

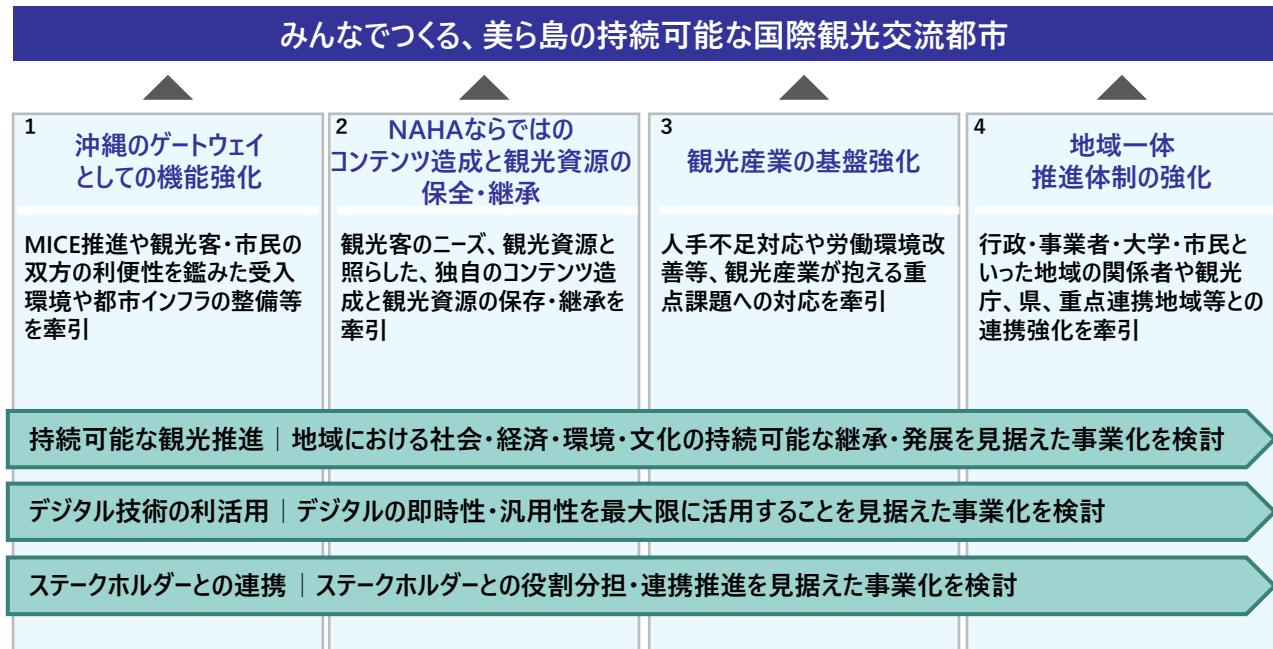
本計画では、前計画の将来像を組み込みつつ、国内外の観光動向や那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえて、具備すべき観点である「持続可能な観光振興」を重視することを示すとともに、多様なステークホルダーの観光振興への理解を醸成し、地域一体となって「国際観光交流都市」づくりを進めていきます。

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

1/3

第2章までの国内外からの観光動向から取り込む視点、那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえた課題、前計画及びコロナ期戦略の振り返りを踏まえた課題でそれぞれ抽出されたキーワードをもとに、上記の将来像を達成するための「取組の柱」及び各「取組の柱」の実現に向けて分野横断的に重要となる観点を「核とする観点・推進力」として抽出しました。

図表 第2次観光基本計画における「取組の柱」と「核とする観点・推進力」の体系



※取組の柱と核とする観点・推進力の詳細説明は次ページ参照

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

(1) 取組の柱

取組の柱1

沖縄のゲートウェイとしての機能強化

沖縄観光は、豊かな自然資源や独自の歴史・文化等の観光資源を活かして、観光振興を行ってきており、その中で那覇市は、世界水準のリゾート地「美ら島 沖縄」のゲートウェイとしての機能を果たしてきました。コロナの沈静化に伴い、観光需要が回復し、国内観光客・インバウンド客ともに観光客数が回復していくことが見込まれます。

今後、国際的な観光交流都市としてのゲートウェイ機能を高めるため、MICEの推進のほか、観光客・市民の利便性向上、回遊の円滑化などを鑑みた受入環境や都市機能の強化に取り組みます。

基本施策（ア）国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化

基本施策（イ）二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進

基本施策（ウ）MICEの誘致及び機能強化、観光の充実

基本施策（エ）誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備

取組の柱2

NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承

観光データ*等を活用したマーケティングに基づき、観光客のリピーター・ファンなどに対して、各属性やニーズ等を踏まえて、首里城跡や識名園などの世界遺産を筆頭に、琉球王国の歴史を伝える歴史・文化資源や自然資源、若者文化等の現代文化資源等の那覇市の観光資源の効果的な観光プロモーションを展開します。

また、既存の地域特性を活かした観光資源の磨き上げや若者文化等の現代文化資源等に係るコンテンツ創出を通じて、那覇市でしか経験できない観光体験の創出を図ります。

基本施策（ア）那覇ならではの歴史・文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化

基本施策（イ）データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施

基本施策（ウ）歴史・文化資源や自然資源等の観光資源の保全・継承及び活用

取組の柱3

観光産業の基盤強化

那覇市の主要産業である観光産業は人材不足や労働環境が重点課題となっています。これらの重点課題の改善に取り組むことで、観光産業の魅力を向上させ、働き手が観光産業に誇りをもって就労し続けることができるよう観光産業の基盤強化に取り組みます。

また、那覇市内での域内調達の強化等、事業活動の活性化を推進し、那覇市内における観光産業の経済効果の拡大に努めます。

基本施策（ア）雇用の確保、労働環境等の改善

基本施策（イ）事業の効率化・高付加価値化の推進を通じた「稼ぐ力」の向上

基本施策（ウ）事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

取組の柱4

地域一体推進体制の強化

那覇市が「持続可能な観光地」づくりを推進していくためには、地域一体となって推進していくことが必要不可欠であり、多様なステークホルダーとの連携が求められます。

地域主体での「持続可能な観光地」づくりを行うため、観光地域作りを担う一般社団法人那覇市観光協会（DMO*）（以下、「那覇市観光協会」という。）の機能強化に取り組むとともに、市民・観光関連事業者の双方に対して観光振興への理解醸成を促進し、産官学民が一体となった体制で観光地経営に取り組みます。

基本施策（ア）適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化

基本施策（イ）市内外のステークホルダーとの連携強化

基本施策（ウ）市民生活と観光振興の調和

（2）核とする観点・推進力

核とする観点・ 推進力1

持続可能な観光推進

「持続可能な観光」の実現にあたっては、第6次沖縄県観光振興基本計画が謳う、「世界から選ばれる持続可能な観光地」（世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」）を踏まえて、社会・経済・文化・環境の持続可能性に配慮し推進していきます。また、SDGsの視点を取り入れつつ、二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向けた観光振興に取り組むこととしています。

核とする観点・ 推進力2

デジタル技術の利活用

近年の社会情勢をみると、Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の普及をはじめ、IoT*（モノのインターネット）やAI（人工知能）といったデジタル技術が発達し多様な領域でのデジタル化が進んでいます。加えて、コロナを契機にワーケーションやノマドなどのリモートでの職場環境整備も拡大しています。観光分野においてもデジタル技術の活用による生産性向上や誘客のあり方に変革をもたらすデジタル・トランスフォーメーション（DX）に積極的に取り組むことで、観光関連事業者の事業効率化や観光客の利便性の向上に繋げます。

核とする観点・ 推進力3

ステークホルダーとの連携

「持続可能な観光」を推進し、那覇市が掲げる将来像を実現することは、行政だけの力では達成することができません。市民・観光客・観光関連事業者・関係機関・行政が一体となって、観光振興に取り組むことで、「持続可能な観光」につながる新たな価値を生み出すと考えています。各ステークホルダーの意見を汲み取る場を積極的に設け、ステークホルダーと那覇市の将来を共に創り上げることで、将来像の実現を目指します。

3. 目標値

1/2

本計画では、将来像実現の進捗把握のために関連するステークホルダーごとにKGI*を設定し、各取組の柱の進捗把握のために基本施策ごとのKPI*を設定しています。本KGI・KPIは、中間評価（5年後）及び最終評価（10年後）における計画進捗度評価に活用し、各種取組の見直しの参考としてまいります。

図表 第2次観光基本計画におけるKGI及び目標値

将来像	目指す姿	KGI	基準値	目標値	
				2029年	2034年
みんなでつくる、 美ら島の 持続可能な 国際観光 交流都市	全体	市民、観光関連事業者、観光客などのステークホルダーが歴史、文化、自然等を尊重し、住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを目指することで那覇市の地域経済の活性化に寄与している	●観光収入（国内観光客及びインバウンド客の合計）	4,126億円	5,900億円 6,800億円
	市民	観光振興による市民生活への効果を実感し、シビックプライドが醸成されるとともに、観光客の来訪を歓迎している	●観光客に来訪してほしいと思う市民の割合	55.2%	68.0% 73.0%
	観光 関連 事業者	働き続けるための労働環境が整備されており、観光関連事業者が観光産業で就労する魅力を感じ、観光産業に従事し続けたい気持ちが醸成されている	●今後も観光産業に従事し続けたいと思う観光関連事業従事者の割合	XX.X% 調査 継続	XX.X% XX.X%
	観光客	那覇市での観光体験を通じて、歴史・文化・自然資源等の多様な観光資源に触れることで再来訪意向が醸成されている	●観光客の再来訪意向	78.8%	80.5% 82.0%

<補足>

本計画のKGIで用いている数値は、「那覇市の観光統計」、「沖縄県に関する県民意識の調査結果報告書」、本計画策定のための「基礎調査」で取得している値であり、今後も進捗管理の観点で継続的に定期的に調査する予定のものである。

なお、観光関連事業者の数値は、2026年3月に那覇市公式ホームページにて公表予定である。

3. 目標値

図表 第2次観光基本計画

取組の柱	基本施策
1. 沖縄のゲートウェイとしての機能強化	(ア) 国内外からの 交通ターミナル機能強化 及び クルーズ船受入機能強化 (イ) 二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進 (ウ) MICEの誘致及び機能強化、観光の充実 (エ) 誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備
2.NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承	(ア) 那覇ならではの歴史・文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化 (イ) データに基づく誘客戦略・ プロモーションの実施 (ウ) 歴史・文化資源や自然資源等の観光資源の保全・継承及び活用
3.観光産業の基盤強化	(ア) 雇用の確保、労働環境等の改善 (イ) 事業の 効率化・高付加価値化 の推進を通じた「稼ぐ力」の向上 (ウ) 事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大
4.地域一体推進体制の強化	(ア) 適切な観光地経営に向けた マネジメント機能強化 (イ) 市内外のステークホルダーとの連携強化 (ウ) 市民生活と観光振興の調和

<補足>

基準値は、「那覇市観光統計」、「那覇市民意識調査」、「沖縄県MICE開催実態調査」、本計画策定のための「基礎調査」で取得している値である。

今後、継続的かつ定期的に、「那覇市の観光統計」、「那覇市民意識調査」を実施することや、「沖縄県MICE開催実態調査」を参考にすることで、進捗管理を行う予定である。

におけるKPI及び目標値

KPI	基準値	目標値	
		2029年	2034年
● 空港やクルーズターミナル等での受入環境整備に対する観光客の満足度	国内：67.3% インバウンド空：87.7% インバウンド海：87.2%	国内：70.0% インバウンド空：89.0% インバウンド海：89.0%	国内：75.0% インバウンド空：90.0% インバウンド海：90.0%
● 二次交通の利便性に係る観光客の満足度	国内：51.7% インバウンド空：89.1% インバウンド海：92.8%	国内：60.0% インバウンド空：93.0% インバウンド海：94.0%	国内：65.0% インバウンド空：95.0% インバウンド海：95.0%
● 那覇市におけるMICE開催件数	329件	390件	450件
● 観光客の多言語対応やバリアフリー対応等の安全・安心・快適に係る受入環境整備の満足度（※1）	国内：32.5% インバウンド空：84.7% インバウンド海：80.9%	国内：45.0% インバウンド空：90.0% インバウンド海：85.0%	国内：50.0% インバウンド空：95.0% インバウンド海：90.0%
● 国内観光客の消費額単価（市内宿泊客のみ対象）	71,229円	79,500円	81,300円
● インバウンド客の消費額単価（空路客のみ対象）（※2）	61,776円	77,700円	87,900円
● 那覇市内で体験コンテンツを体験した観光客の割合	国内：55.7% インバウンド：19.5%	国内：65.0% インバウンド：30.0%	国内：70.0% インバウンド：40.0%
● 特產品の認知度（※3）	国内：58.8% インバウンド：23.2%	国内：65.0% インバウンド：30.0%	国内：70.0% インバウンド：40.0%
● 歴史・文化・自然資源の保全・継承に寄与する関連活動に取り組む観光関連事業者の割合	46.9%	55.0%	60.0%
● 人手不足を感じている観光関連事業者の割合	68.8%	60.0%	55.0%
● ICT技術等のデジタル技術導入を進める観光関連事業者の割合	43.8%	55.0%	60.0%
● 積極的に地域貢献に取り組む観光関連事業者の割合	46.9%	55.0%	60.0%
● JSTS-D*に係るアセスメントを踏まえた課題対応件数（累計）	-	15件	30件
● 観光課・観光協会を主体とした国・県、他市町村、関係機関、関係団体との連携事業数（※4）	12件	14件	16件
● 観光振興によって市民にメリットがあると感じる市民の割合	42.7%	50.0%	60.0%
● 観光振興によって市民にデメリットがあると感じる市民の割合	53.5%	45.0%	35.0%

※1：「非常に満足」「やや満足」の回答割合のみを数値として取り扱っている。

なお、国内観光客において「普通」と回答した方の割合は63.5%を占めている。

※2：【参考】海路インバウンド客の平均消費額単価は、13,632円（2024年度）である。

※3：基本施策(1)は他のKPI指標にも関連する横断的な施策である。KPIとしては、コンテンツごとに設定せず、コンテンツの中でも特產品の認知度に着目した指標とする。

※4：市内の観光関連事業者等との連携は他の基本施策内で多く対応しているため、KPIでは設定しない。

4. 観光ゾーニング

1/2

(1) 観光ゾーニングの目的と位置づけ

観光ゾーニングは、那覇市が保有する観光資源、歴史・文化資源、自然資源の特性、また土地の特性に合わせて、エリアを区分し、ゾーンの特徴や観光利用の方向性を想定するものです。観光ゾーニングは法的に担保するものではありませんが、都市整備や歴史・文化資源・自然資源の保護・保全計画と連携していくものです。

(2) 観光ゾーニングの基本的な考え方

那覇市における観光ゾーニング区分は、各エリアにおける特徴や観光利用の方向性と共に、那覇らしい景観・風景の醸出も踏まえて設定しています。

観光交流都市として、独自の歴史・文化資源や自然資源の保全を重視しつつ、それらと共生した観光利用の促進や、世界遺産（首里城跡、識名園等）や中心市街地（国際通り等）を核としながら、他のエリアへの回遊も想定した面としての利活用を促進していきます。

なお、那覇市の観光ゾーニングに設定されていない他地区においても観光資源の保護充実を継続的に図ります。

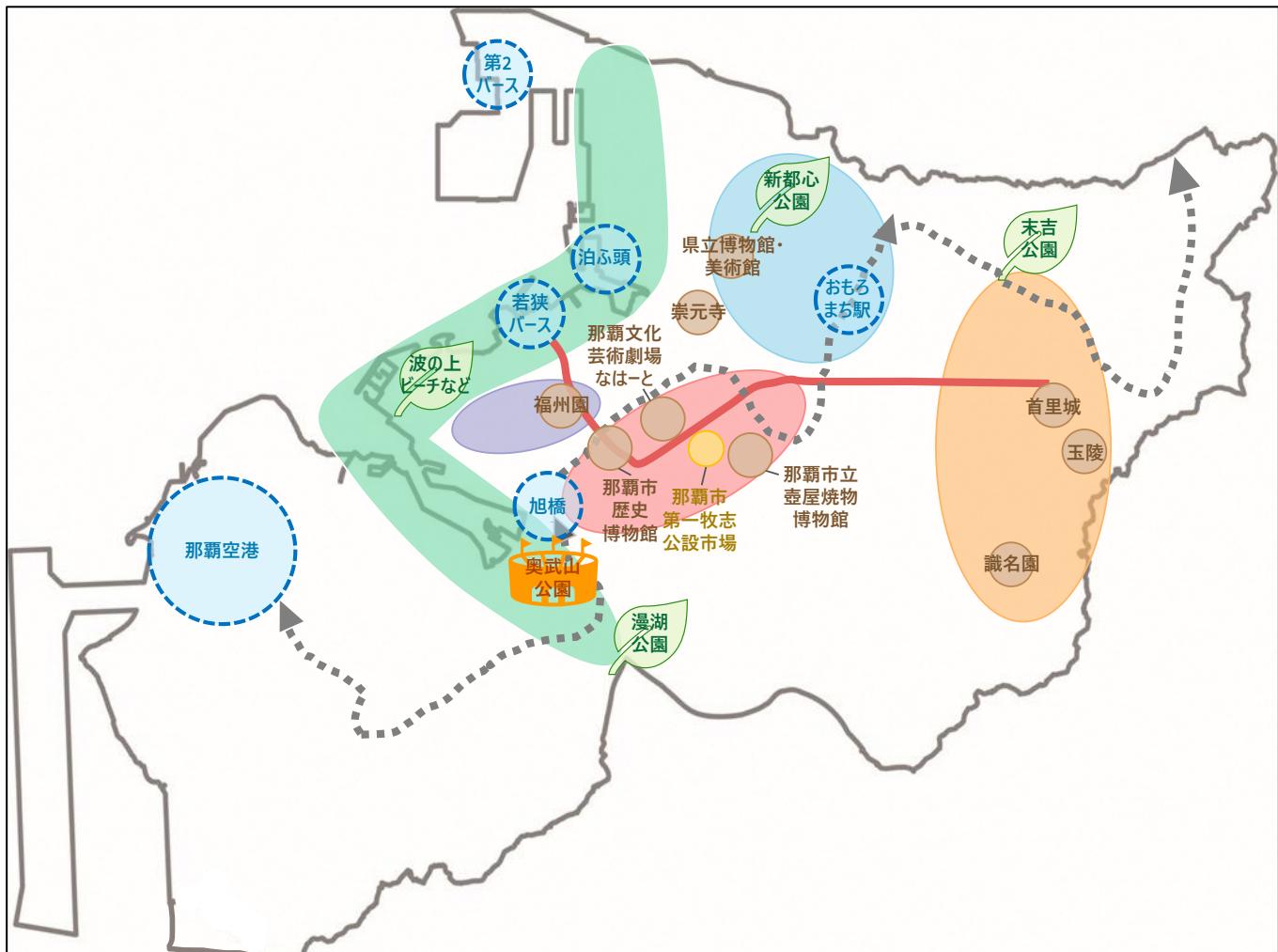
図表 ゾーニング区分

ゾーン区分	ゾーンの特徴	観光利用の方向性
中心市街地 賑わいゾーン	国際通りを中心に商業施設や宿泊施設、文化・芸術施設などが集積するとともに、マチグーに象徴される歴史的・文化的な魅力あふれる、那覇観光の中心となるゾーン。	<ul style="list-style-type: none"> 那覇物産、土産と地域の逸品探し 地域の隠れた店舗、飲食店の発見 まち歩きと食・ショッピングを楽しむ 利便性の良い市街地に泊まる 那覇市の歴史・文化を学び、体験する
首里・識名歴史 探索ゾーン	首里城及び識名園を核とし、じっくり沖縄文化の歴史を学び楽しむゾーン。	<ul style="list-style-type: none"> 都市の中で歴史・文化に包まれ、琉球王国の歴史・文化を体験できるコンテンツやまち歩きを楽しむ 「ゆくいどろ歴史散歩道」により、散策、サイクリング、ゆいレールを使い分け、他のエリアと行き来しながら那覇のまちを楽しむ
おもろまち 新都心ゾーン	県立博物館・美術館などで沖縄について学びながら散策し、首里城など周辺観光への拠点となる。また免税店など大型店舗でのショッピングを楽しめるゾーン。	<ul style="list-style-type: none"> 博物館などで沖縄の歴史・文化を学び、芸術に触れる ショッピングを楽しむ
ウォーターフロント ゾーン	漫湖湿地帯から奥武山公園、将来的な面的利活用の可能性を残す那覇港湾施設（那覇軍港）、波の上ビーチ、クルーズバース、泊港などに至る、那覇らしい水辺沿いをつなぐ。沖縄のウォーターフロントに相応しい開放的な海、川を感じ、市街地との連携を図るゾーン。	<ul style="list-style-type: none"> 市街地から歩いて行けるビーチを楽しむ クルーズ船の利用者は那覇の港付近で、なはまぐろを中心とした那覇の水産物やマリンアクティビティを体験する 周辺離島へのアクセス拠点として、渡嘉敷、座間味、久米島等の離島を楽しむ ラムサール条約登録湿地である漫湖で、希少な水鳥やカニ類などの生き物を観察する
クニンダ (久米村) 歴史交流ゾーン	中心市街地賑わいゾーンとウォーターフロントを繋ぐ、「福州園」を中心に琉球王国の歴史を学べるゾーン。	<ul style="list-style-type: none"> かつての旧市街地で歴史・文化を探索する

4. 観光ゾーニング

2/2

図表 那覇市における観光ゾーニングの構造図



ゾーン

- 中心市街地賑わいゾーン
- 首里・識名歴史探索ゾーン
- おもろまち新都心ゾーン
- ウォーターフロントゾーン
- クニンダ（久米村）歴史交流ゾーン

都市の拠点

- 交通結節点
- 自然・レクリエーション拠点
- 歴史・文化拠点
- 商業拠点
- スポーツ拠点

都市の軸

- シンボル軸*
- モノレールの軸

第4章 取組の体系及び具体的な内容

1. 取組の体系
2. 取組の内容

1. 取組の体系

将来像

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

取組の柱	基本施策
1. 沖縄のゲートウェイとしての機能強化	<p>(ア)国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化 P.47</p> <p>(イ)二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進 P.48</p> <p>(ウ)MICEの誘致及び機能強化、観光の充実 P.49</p> <p>(エ)誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備 P.50</p>
2.NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承	<p>(ア)那覇ならではの歴史・文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化 P.51</p> <p>(イ)データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施 P.52</p> <p>(ウ)歴史・文化資源や自然資源等の観光資源の保全・継承及び活用 P.53</p>
3.観光産業の基盤強化	<p>(ア)雇用の確保、労働環境等の改善 P.54</p> <p>(イ)事業の効率化・高付加価値化の推進を通じた「稼ぐ力」の向上 P.55</p> <p>(ウ)事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大 P.56</p>
4.地域一体推進体制の強化	<p>(ア)適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化 P.57</p> <p>(イ)市内外のステークホルダーとの連携強化 P.58</p> <p>(ウ)市民生活と観光振興の調和 P.59</p>

取組概要

- ◆ 空港・港等における、歴史・伝統文化に興味を惹きつけるための仕組みづくり・おもてなし向上
 - ◆ 空港・港等から市街地への円滑かつ最適な移動手段の充実化及び快適な移動に向けた環境づくり
 - ◆ 事業者と連携した、交通結節点周辺の公共スペース等を活用した物販等消費単価向上
- ◆ 主要な交通施設等における機能や交通案内等の充実化
 - ◆ まち歩きを楽しめる、安心かつ魅力的な歩行空間・景観づくり
 - ◆ 混雑情報・観光周遊ルート発信やフリンジパーキング*等による混雑緩和及び市内周遊の促進
- ◆ 推進主体と関係機関、地域事業者等と連携した受入体制構築
 - ◆ 那覇ならではの文化・芸術・伝統・食を活用したMICE向けコンテンツ開発・ユニークベニュー*・アフターMICEの促進
 - ◆ スポーツイベントやキャンプ等の誘致・開催促進を通じたスポーツコンベンションの推進
 - ◆ ターゲットを見据えた効果的な誘致活動
- ◆ 外国語表記や対応の充実化等の外国人観光客の受入体制の整備・強化
 - ◆ 障がいのある方、LGBTQ+*、高齢者等あらゆる観光客に配慮したユニバーサルな受入環境整備の促進
 - ◆ 感染症や災害等に備えた非常時の対応強化
 - ◆ 観光における安全性確保や迷惑防止等に対する対応強化
- ◆ 滞在促進や消費向上に向けた観光コンテンツの開発及び支援
 - ◆ 歴史・文化・食文化・生活文化等を活用した体験メニュー・イベントの充実化
 - ◆ 伝統工芸品（壺屋焼、首里織等）や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品等の創造・磨き上げ
 - ◆ 那覇市の観光ゾーニングを踏まえたまち歩きの促進
- ◆ マーケティング調査データ・分析を踏まえた、性別や年代、国籍等の属性ごとのニーズや特徴の把握
 - ◆ 県内外の旅行会社に対する説明会等を活用したプロモーション
 - ◆ SNSやアプリ、QRコード等を活用した情報発信の充実化
- ◆ 歴史・文化や芸術資源の普及・学びの機会の創出
 - ◆ 那覇ならではの歴史・文化や自然、食等の観光資源に関する専門知識を有する人材の育成
 - ◆ 首里城正殿などの復元に伴う観光資源の利活用等に係る取組の展開
- ◆ 外国人材やUターン*・Iターン*等の多様な人材の雇用促進に向けた支援
 - ◆ 教育機関との連携による、将来的な観光産業の担い手のきっかけづくり・育成
 - ◆ 労働環境改善等の取組推進に向けた事業者への啓発
- ◆ 観光関連事業者のデジタル人材育成やデジタル技術導入の支援
 - ◆ 観光関連事業者向けオープンデータ*の整備・公開、データ活用促進
 - ◆ 観光関連事業者向けの、語学や“うとういむち”（おもてなし）等のスキルアップ講座の開設
 - ◆ 事業者の新規取組に向けた、観光関連事業者の相談受入・取組支援
- ◆ 域内調達率の向上促進
 - ◆ 観光関連事業者等による省エネルギー・廃棄物抑制等、環境に配慮した事業活動への支援
 - ◆ ボランティア活動等を通じた、観光関連事業者の地域活動への参画
- ◆ JSTS-D等の国際基準を踏まえた持続可能な観光地経営の推進
 - ◆ 那覇市観光協会の組織経営やマーケティング等の専門人材の育成・登用の支援
 - ◆ 観光目的税に関する対応の検討
- ◆ 市内の多様なステークホルダーからの意見の吸い上げ及び施策への反映
 - ◆ DMOや周辺地域及び離島との連携
 - ◆ 観光庁やJNTO等の国の機関との連携促進
- ◆ 市民フォーラムやボランティア活動等の開催を通じた観光振興に対する理解の醸成及び地域貢献の促進
 - ◆ 定期的な市民の観光振興に対する意識調査及び施策への反映
 - ◆ 公開講座等による、観光客の受入を見据えた異文化交流に係る学習機会の提供

2. 取組の内容

1/13

取組の柱1

沖縄のゲートウェイとしての機能強化

基本施策（ア）

国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化

国際的なリゾート地である沖縄の拠点都市としてのプレゼンスを確立し持続的に成長していくために、交通ターミナル機能の強化を図ります。また、アフターコロナにおける今後の需要拡大が見込まれるクルーズ船の受入機能の強化に向けた取組を推進します。

【取組概要】

◆ 空港・港等における、歴史・伝統文化に興味を惹きつけるための仕組みづくり・おもてなし向上

那覇市の歴史や伝統文化を発信できるような展示等を通じて、那覇空港や那覇港等の主要な交通結節点を利用する観光客に那覇の歴史や伝統文化を認識できる機会を提供します。

〈実施主体〉

観光課

文化財課

那覇市観光協会



那覇クルーズターミナル

◆ 空港・港等から市街地への円滑かつ最適な移動手段の充実化及び快適な移動に向けた環境づくり

那覇空港や那覇港等の主要な交通結節点から中心市街地までをタクシーやバス等の交通事業者との連携を活用し、円滑かつ快適に移動できるように手段の充実化を図るとともに、利用者に分かりやすさのサインの掲示等、快適な移動に向けて環境づくりを推進します。

〈実施主体〉

観光課

都市計画課

道路建設課

道路管理課

観光関連事業者

◆ 事業者と連携した、交通結節点周辺の公共スペース等を活用した物販等消費単価向上

那覇市が有する観光資源等を活用し、新たな特産品や土産品の企画・開発支援を行うとともに、市内全体での物販と併せて、那覇空港や那覇港、おもろまち駅等の交通結節点周辺での販売を促進します。

〈実施主体〉

商工農水課

観光関連事業者

令和5年度那覇市長賞
受賞賞品「OKARAちんすこう」

2. 取組の内容

2/13

基本施策（1）

二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進

那覇市内及び周辺地域における周遊観光を促進していくために、交通結節点の整備・機能強化と那覇空港や那覇港等の主要な交通結節点からの二次交通の利便性向上を図ります。また、観光客と市民の双方に配慮をしながら交通対策への取組を推進します。

【取組概要】

◆ 主要な交通施設等における機能や交通案内等の充実化

公共交通機関の主要な停留所における上屋の整備を進めるとともに、県と連携したデジタルサイネージ等の設置やアプリ・デジタルサイネージ内の情報整理を通じて、観光客のソフト面における受入環境整備を推進します。

〈実施主体〉

道路建設課

観光関連事業者



那覇市内のバス停における上屋

◆ まち歩きを楽しめる、安心かつ魅力的な歩行空間・景観づくり

トランジットモール*等の活用や、立体植栽等を通じた「那覇らしい」景観整備等、「居心地がよく歩きたくなる」ウォーカブル*な歩行空間・景観づくりを実施します。

〈実施主体〉

観光課

なはまち振興課

道路管理課

公園管理課



トランジットモールの実施風景

◆ 混雑情報・観光周遊ルート発信やフリンジパーキング等による混雑緩和及び市内周遊の促進

フリンジパーキングやシェアサイクル等の促進及び観光周遊ルート整備・周知活動により、那覇市の交通渋滞対策及び周遊促進に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

都市計画課

道路建設課

道路管理課



シェアサイクルのイメージ

2. 取組の内容

3/13

基本施策（ウ） MICEの誘致及び機能強化、観光の充実

2024（令和6）年度に策定した那覇市都市型MICE振興戦略を踏まえながら、地域事業者や関係機関との連携により、国際的な観光交流都市としての受入体制・機能を強化し、MICE主催者等への支援などを通して、地域への経済効果の取り込みや観光客の平準化に繋げます。

【取組概要】

◆ 推進主体と関係機関、地域事業者等と連携した受入体制構築

那覇市を中心に那覇市観光協会をはじめとする関係機関や地域事業者等と連携しMICE受入体制を構築し、MICE受入を推進します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

観光関連事業者



琉球舞踊

◆ 那覇ならではの文化・芸術・伝統・食を活用したMICE向けコンテンツ開発・ユニークベニュー・アフターMICEの促進

那覇文化芸術劇場なはーとや識名園等を活用したMICE機会の拡充に加え、琉球舞踊やエイサー、空手等の伝統文化や琉球料理*等の食文化を体験してもらう取組を推進します。

〈実施主体〉

観光課

文化振興課

文化財課

なはまち振興課

那覇市観光協会



識名園

◆ スポーツイベントやキャンプ等の誘致・開催促進を通じたスポーツコンベンションの推進

那覇市のスポーツコンベンション拠点を活用したプロ野球キャンプ等を推進するとともに、国内外から多くの参加実績を有するNAHAマラソン等のスポーツイベントを推進します。

〈実施主体〉

観光課

市民スポーツ課



NAHAマラソン

◆ ターゲットを見据えた効果的な誘致活動

那覇市都市型MICE振興戦略に沿って、経済振興とまちづくりに寄与するMICEの誘致・開催に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

2. 取組の内容

4/13

基本施策（工）

誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備

那覇市内における、より質の高い観光に向けて、年齢・性別・国籍を問わず誰もが安全・安心・快適に観光できることを念頭に、SDGsの考えも踏まえたうえで、ハード・ソフト両面の受入環境を整備します。

【取組概要】

◆ 外国語表記や対応の充実化等の外国人観光客の受入体制の整備・強化

観光案内所や「那覇まちま～い」における外国語対応強化や飲食店等における多言語化の推進等、外国人観光客の受入体制の整備・強化に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

なはまち振興課

那覇市観光協会

観光関連事業者

教育機関



観光案内所における外国人対応の様子

◆ 障がいのある方、LGBTQ+、高齢者等あらゆる観光客に配慮したユニバーサルな受入環境整備の促進

那覇市福祉のまちづくり条例、那覇市バリアフリー基本構想等に沿って、バリアフリーに関する学習機会を提供するとともに、観光関連事業者と連携し市内の観光施設や交通機関、公園や道路環境等のユニバーサルデザイン化を推進します。



車いす対応した観光バス

〈実施主体〉

福祉政策課

都市計画課

道路管理課

道路建設課

那覇市観光協会

観光関連事業者

◆ 感染症や災害等に備えた非常時の対応強化

感染症や災害等の非常時において、那覇市民、観光客、観光関連事業者等に対する対応強化に向けた観光危機管理の取組を推進します。

〈実施主体〉

観光課

保健総務課

予防課

防災危機管理課

救急課

生活衛生課

建築指導課

観光関連事業者

◆ 観光における安全性確保や迷惑防止等に対する対応強化

観光客へのマリンレジャー等を安全に楽しむための注意喚起及び観光関連事業者・市民への防犯意識向上への取組推進、客引き等の迷惑行為の防止、適切なごみ処理周知を通じた快適な受入環境の整備等に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

市民生活安全課

環境政策課

那覇市観光協会

観光関連事業者

2. 取組の内容

5/13

取組の柱2

NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承

基本施策（ア）

那覇ならではの歴史・文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化

那覇ならではの歴史・文化や特産物等を保全し次世代に継承しながら、生活文化や若者文化等の現代文化に係る新たな資源を活かしたコンテンツの発掘・創造・磨き上げを行い、那覇でしかできない体験の提供に取り組みます。また、環境・生態系等の自然を守りつつ、マリンレジャー等の自然を活かしたコンテンツの充実化に取り組みます。

【取組概要】

◆ 滞在促進や消費向上に向けた観光コンテンツの開発及び支援

なはまぐろの食体験や波の上ビーチでのマリンレジャー等の那覇市が有する観光資源を活用したコンテンツや、夜間・早朝のコンテンツ、クリエイティブ産業*と連携したコンテンツ造成に取り組み、観光客の誘客を推進します。

〈実施主体〉

観光課 商工農水課 那覇市観光協会

観光関連事業者



波の上ビーチSUPヨガ

◆ 歴史・文化・食文化・生活文化等を活用した体験メニュー・イベントの充実化

那覇市指定無形民俗文化財に指定されている伝統芸能等の琉球文化の体験機会や琉球料理等の「食」をテーマとした体験型コンテンツの充実化を図ります。また、那覇ハーリーや那覇大綱挽まつり、琉球王朝祭り首里等の歴史・文化イベントを活用し、観光客の誘客を推進します。

〈実施主体〉

観光課 商工農水課 なはまち振興課

文化振興課 文化財課 那覇市観光協会

観光関連事業者



那覇大綱挽

◆ 伝統工芸品（壺屋焼、首里織等）や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品等の創造・磨き上げ

壺屋焼、首里織やなはまぐろのような地場産品・特産品の既存商品の販売促進活動支援や、若者文化等の新たな資源の創造支援を通じて、那覇市ならではの歴史・文化・食等の磨き上げを図ります。

〈実施主体〉

商工農水課 那覇市観光協会 観光関連事業者



なはまぐろのセリ

◆ 那覇市の観光ゾーニングを踏まえたまち歩きの促進

観光ゾーニングで設定している観光機能・観光利用の方向性を踏まえ、那覇ならではの体験を那覇まちまへいや那覇市街角ガイドとの周遊を通して提供し、那覇市内周遊の促進を図ります。

〈実施主体〉

商工農水課 文化財課 那覇市観光協会

2. 取組の内容

6/13

基本施策（1）

データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施

データに基づきながら、那覇ならではの魅力を効果的に伝えるため、来訪者の属性ごとに誘客・プロモーションをステークホルダーと連携して行います。また、情報発信にあたっては、発信方法を来訪者のニーズに合わせて常に最適化を図っていきます。

【取組概要】

◆ マーケティング調査データ・分析を踏まえた、性別や年代、国籍等の属性ごとのニーズや特徴の把握

那覇市観光協会や観光関連事業者等のステークホルダーと連携しながら、性別や年代、国籍等の那覇市への来訪者属性に沿ったニーズや観光の特徴を把握します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

観光関連事業者

◆ 県内外の旅行会社に対する説明会等を活用したプロモーション

プロモーションフィールドを最大限活用し、旅行会社への周知を行うとともに、那覇市における安全・安心・快適な観光に向けた取組を旅行会社を通じて観光客に周知します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会



那覇市観光PR出展ブース

◆ SNSやアプリ、QRコード等を活用した情報発信の充実化

旅マエ・旅アトにおいては、那覇市や那覇市観光協会の公式ホームページやSNS、各種旅行サイトと連携して、なはまぐろをはじめとする那覇市の特産品等の那覇ブランド周知に取り組みます。旅ナカにおいては、上記に加え、デジタルサイネージを活用し、タイムリーな情報を発信できるよう取組を強化します。

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

秘書広報課

なはまち振興課

那覇市観光協会

観光関連事業者



那覇市ぶんかテンブス館におけるてんぶすビジョン

2. 取組の内容

7/13

基本施策（ウ）

歴史・文化資源や自然資源等の観光資源の保全・継承及び活用

世界遺産である首里城跡を筆頭に、琉球王国の歴史・文化を伝える有形及び無形の歴史・文化資源や自然資源等の維持保全を推進するとともに、那覇市の文化芸術の担い手や観光ガイドの育成を通じて次世代への観光資源の継承に取り組みます。

【取組概要】

◆歴史・文化や芸術資源の普及・学びの機会の創出

琉球王国の歴史・文化を伝える有形・無形の歴史・文化資源の保全に取り組みます。また、市民及び観光客向けに地域に根差す伝統文化に触れる機会や保全・継承の方法等を学ぶ機会を、「那覇文化芸術劇場なはーと」等の文化施設を有効活用し、文化関係団体や教育機関等と共に創出します。

〈実施主体〉

観光課 文化振興課 文化財課

那覇市観光協会 教育機関



地域文化芸能公演
「TSUNAGU 2023」

◆那覇ならではの歴史・文化や自然、食等の観光資源に関する専門知識を有する人材の育成

那覇市の観光資源を後世へ継承し、持続的に活用し続けることを見据えて、那覇市の観光資源の保全方法をはじめとする適切な知識を観光客に伝えることができるガイドや歴史・文化の担い手等の育成に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課 文化振興課 那覇市観光協会

観光関連事業者



まちま~いガイド

◆首里城正殿などの復元に伴う観光資源の利活用等に係る取組の展開

首里城正殿などの復元に際して、国や沖縄県と足並みを揃え、首里城の歴史や琉球文化の保存・継承に係るコンテンツの開発及び観光資源としての活用に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課



首里城正殿（平成の復元時）

2. 取組の内容

8/13

取組の柱3

観光産業の基盤強化

基本施策（ア）

雇用の確保、労働環境等の改善

特に次世代を担う若者にとって魅力があり、就業したいと思われる観光産業を目指して、沖縄県や業界団体等と連携しながら雇用・労働環境の整備にかかる取組を推進します。

【取組概要】

◆ 外国人材やUターン・Iターン等の多様な人材の雇用促進に向けた支援

観光関連事業者と多様な人材とのマッチングや長期的な雇用を促す人材雇用・育成支援等の整備を通じて、観光産業の雇用促進に取り組みます。

〈実施主体〉

商工農水課

観光関連事業者

◆ 教育機関との連携による、将来的な観光産業の担い手のきっかけづくり・育成

小学校から大学までの教育機関と観光関連事業者による
产学連携を促進し、観光産業を目の前で見て体験する機会を通じて
学生へ観光産業の魅力を伝えることで、観光産業における創業・就職
を促進します。

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

那覇市観光協会

教育機関

観光関連事業者



キャリア育成支援事業

◆ 労働環境改善等の取組推進に向けた事業者への啓発

観光関連事業者を対象として、採用活動支援を行うとともに、
従事者の労働環境改善に向けた支援を行うことで観光産業における
定着率の向上を図ります。

〈実施主体〉

商工農水課



面接会の写真

2. 取組の内容

9/13

基本施策（1）

事業の効率化・高付加価値化の推進を通じた「稼ぐ力」の向上

観光産業の持続的な発展に向けて、デジタル技術の導入支援や従事者のスキルアップ支援、新規事業支援等の観光関連事業者の「稼ぐ力」向上に向けた事業の効率化・高付加価値化を推進します。

【取組概要】

◆ 観光関連事業者のデジタル人材育成やデジタル技術導入の支援

観光関連事業者がDX推進人材*を雇用・育成する際の支援に加えて、国や県が展開するキャッシュレス決済環境や多言語化等のデジタル技術導入に向けた各種支援内容を周知し、生産性向上に向けた取組の支援を行います。

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

観光関連事業者



那覇市DX推進計画内の
スマートシティの位置づけ

◆ 観光関連事業者向けオープンデータの整備・公開、データ活用促進

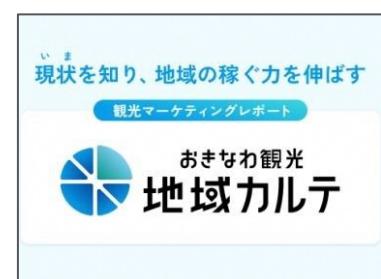
フライト予約数・宿泊施設予約数・日別施設訪問者数等のオープンデータを整備・公開するとともに、データの活用方法の理解醸成等、観光関連事業者の利用促進に向けた取組を推進します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

観光関連事業者



OCVBの
「おきなわ観光地域カルテ」のロゴ

◆ 観光関連事業者向けの、語学や“うとういむち”（おもてなし）等のスキルアップ講座の開設

来訪者に対する那覇らしさの提供を見据えて、観光関連事業者を対象とした語学やおもてなし等の学習機会を提供します。

〈実施主体〉

生涯学習課

観光関連事業者

教育機関

◆ 事業者の新規取組に向けた、観光関連事業者の相談受入・取組支援

観光関連事業者を対象とした創業・就職支援、及び高付加価値化を見据えた観光コンテンツの創出支援等を推進します。

〈実施主体〉

観光課

商工農水課



観光コンテンツモニターツアーの様子

2. 取組の内容

10/13

基本施策（ウ）

事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大

観光産業を地域に根差したものとして、那覇市の地域社会と共に存しながら持続的に発展させるために、事業活動と地域社会の活性化の両輪に貢献する取組を推進します。

【取組概要】

◆ 域内調達率の向上促進

那覇市の伝統工芸品や食材（なはまぐろ等）等の地場産品、特産品を観光関連事業者へ継続的に周知するとともに、第一牧志公設市場や泊いゆまち等の利用促進を図ることで那覇市内の事業者から調達する割合を高めます。また、既存の資源の活用だけでなく、地域主導による新たな観光資源・コンテンツ創出・活用の支援を行います。

〈実施主体〉

商工農水課

観光関連事業者



なはまぐろ市場

◆ 観光関連事業者等による省エネルギー・廃棄物抑制等、環境に配慮した事業活動への支援

観光客や観光関連事業者が排出するごみの減量や食品ロスの削減、サステナブルツーリズム・エコツーリズム*の推進等、環境保全に向けた取組の支援を行います。

〈実施主体〉

観光課

環境政策課

企画調整課

観光関連事業者

教育機関



漫湖水鳥・湿地センター・遊歩道

◆ ボランティア活動等を通じた、観光関連事業者の地域活動への参画

観光関連事業者参加型で推進する景観整備や那覇市の環境を守っていくための講習会等を通じて、観光関連事業者による地域活動への参画機会を提供します。

〈実施主体〉

道路管理課

環境政策課

那覇市観光協会

観光関連事業者



グリーン・ロード・ソポーターの活動風景

2. 取組の内容

11/13

取組の柱4

地域一体推進体制の強化

基本施策（ア）

適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化

那覇市は、観光地域づくりを担う那覇市観光協会の役割の明確化や地域の観光関連事業者との連携強化に向けた支援を推進するとともに、推進体制をブラッシュアップし、PDCAサイクルの円滑化を図ります。さらに、安定した観光地経営がなされるよう、財源を確保し、支援していきます。

【取組概要】

◆ JSTS-D等の国際基準を踏まえた持続可能な観光地経営の推進

持続可能な観光推進を継続的に取り組むことを見据え、定期的にアセスメントを実施するとともに、JSTS-D等の国際基準に沿った取組推進を支援します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会



JSTS-D ロゴ

◆ 那覇市観光協会の組織経営やマーケティング等の専門人材の育成・登用の支援

那覇市観光協会が、DMOとしての役割を果たすことができる組織体制づくりやデータに基づいた観光マーケティングを展開するための専門人材育成・登用について支援します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会



NAHANAVI ロゴ

◆ 観光目的税に関する対応の検討

沖縄県で導入を検討している観光目的税に関して、税収等を効果的な観光基盤の強化に活用し、観光振興に寄与する取組を推進します。

〈実施主体〉

観光課

2. 取組の内容

12/13

基本施策（1） 市内外のステークホルダーとの連携強化

那覇市観光協会や観光関連事業者と密に連携し、地域一体となった推進体制の強化を図ります。また、沖縄県、周辺市町村等の外部の多様なステークホルダーとも継続的に連携強化を図っていきます。

【取組概要】

◆ 市内の多様なステークホルダーからの意見の吸い上げ及び施策への反映

那覇市観光協会や観光関連事業者が参画する各種協議会や市民・観光関連事業者へのアンケート等を通じて、各ステークホルダーから那覇市の観光振興に対する意見を適時・適切に吸い上げ、本計画の中間見直し等において施策へ反映します。

〈実施主体〉

観光課

企画調整課

那覇市観光協会



令和5年度実施の
那覇市民向けワークショップの様子

◆ DMOや周辺地域及び離島との連携

沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー（以下、「OCVB」という。）、周辺市町村や離島と密に連携し、周辺市町村や離島等の観光振興を進めます。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会



ホエールウォッチング

◆ 観光庁やJNTO等の国の機関との連携促進

省庁が展開する補助事業や実証事業への参画・対外的なプロモーションを通じて、観光庁やJNTO等の国の機関との連携を強化します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

2. 取組の内容

13/13

基本施策（ウ）

市民生活と観光振興の調和

観光振興が市民生活に及ぼす影響を市民に周知することで、観光振興に対する理解や貢献意欲を醸成するとともに、市民と連携しながら観光地域づくりに取り組みます。また、市民生活に生じうるマイナスな影響に対しては、オーバーツーリズムへの対策等により、市民生活と観光振興の調和を図ります。

【取組概要】

◆ 市民フォーラムやボランティア活動等の開催を通じた観光振興に対する理解の醸成及び地域貢献の促進

市民フォーラムや伝統文化へのふれあい機会等の那覇市民が直接参加できるイベントを通じて、市民が那覇市の魅力を知るとともに、観光振興のメリットを共有し、観光振興に対する理解を醸成します。また、うまんちゅ 御万人すりていクリーン・グリーン・グレイシャス* (CGG) 等のボランティア活動を通じて、地域一体となった取組を促進します。

〈実施主体〉

観光課

文化振興課

生涯学習課

◆ 定期的な市民の観光振興に対する意識調査及び施策への反映

那覇市が継続的に実施している市民意識調査等を通じて、那覇市民と連携して地域一体で観光振興を進めていくために、観光振興に対する満足度や要望等を吸い上げ、中間見直し等において施策へ反映します。

〈実施主体〉

観光課

企画調整課

◆ 公開講座等による、観光客の受入を見据えた異文化交流に関する学習機会の提供

那覇市において、従来から展開している公開講座等を通じて、インバウンド客の考え方に対する異文化交流の機会を造成し、異文化への理解の醸成を促進します。

〈実施主体〉

商工農水課

生涯学習課

第5章 推進体制と進捗マネジメント

1. 推進体制の概要と基本役割
2. 進捗のマネジメント

1. 推進体制の概要と基本役割

本計画では、那覇市、国・県・OCVB、那覇市観光協会、観光関連事業者、教育機関、市民が那覇市観光の将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で連携、協働して計画推進に取り組みます。

図表 本計画における推進体制と基本役割

【基本役割】観光施策の策定・展開と基盤整備

アクション例：

- ・「那覇市観光基本計画」策定・効果検証
- ・誰もが移動しやすいまちづくりに係るハード整備
- ・ステークホルダーとの連携

【基本役割】観光マーケティング・マネジメントの強化

アクション例：

- ・観光関連のデータ収集・分析
- ・観光資源を活かしたソフト整備
- ・地域マネジメント
(観光関連事業者一体とした
プラットフォーム*機能強化)

【基本役割】観光客へのサービス提供と高付加価値化

アクション例：

- ・観光計画と連動したサービスの向上
- ・那覇らしい観光コンテンツ、
サービスの開発・磨き上げ
- ・雇用・経営の改善

【基本役割】観光に関する理解関心及び観光客を迎える意識の醸成

アクション例：

- ・市民の意識調査への回答
- ・那覇ならではのおもてなしの提供
- ・地域の文化の継承

【基本役割】先導的で持続可能な広域観光戦略に基づく施策の推進・支援

アクション例：

- ・国や県単位の広域課題に関連する事業支援
- ・海外プロモーションや大規模な受入環境のハード整備等

【基本役割】将来の那覇観光における観光地経営を担う人材の育成

アクション例：

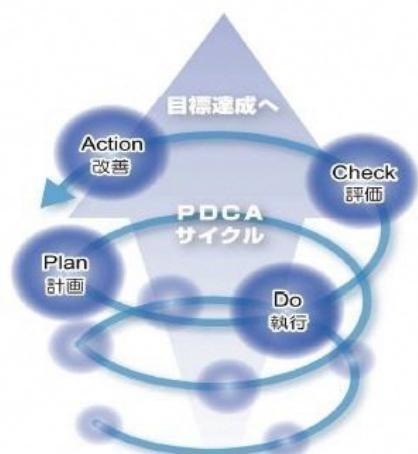
- ・専門人材育成を目的とした研修プログラムの開発
- ・専門分野による知見に基づいた観光施策への助言

2. 計画進捗のマネジメント

本計画の推進にあたっては、「1. 推進体制の概要と基本役割」で示す観光関連団体それぞれが役割を担いながら相互に連携して取り組むとともに、適切な進捗マネジメントが不可欠です。

そのために、府内での進捗管理や、観光関連団体で構成される観光審議会等を通じて、幅広い分野にまたがる本計画の各種施策を円滑に推進していくとともにPDCAサイクルに基づいて進捗のマネジメントを図ります。

また、社会情勢の変化などを踏まえ、必要な計画の見直しと着実な推進を目指します。



参考資料

1. 用語解説
2. 計画策定の経緯

1. 用語解説

1/4

用語	解説
AI	「Artificial Intelligence」の略称。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術であり、ロボット等への活用例がある
DMO	観光地域づくり法人のことであり、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、多様な関係者と協同しつつ地域の人々が地域に誇りを持てるような取組を実施するための調整機能を備えた法人を示す
DX	「Digital Transformation」の略称。IT（情報技術）を有効的に活用することで、団体のあり方等に変革をもたらし、新たな価値を創出や社会や人々の生活を向上させる取組を示す
DX推進人材	デジタルの知見や技術を持ちつつ、企業・団体の中においてDX推進できる人材を示す
ICT	「Information and Communication Technology」の略称。情報通信技術を利用した、人と人、人とインターネットをつなぐサービスや技術の総称を示し、観光文脈ではマーケティングやインバウンド客への情報発信等における活用事例がある
IoT	「Internet of Things」（通称：モノのインターネット）の略称。多様な「モノ」がインターネットでつながり、情報をやり取りする仕組みを示す
リターン	都市圏出身の人が地方に移住や転職することを示す
JNTO	「Japan National Tourism Organization」（通称：日本政府観光局、正式名称：独立行政法人国際観光振興機構）の略称。インバウンド客に対して日本のプロモーションやマーケティング活動を中心に行う、国の独立行政法人を示す
JSTS-D	「Japan Sustainable Tourism Standard for Destinations」（通称：日本版持続可能な観光ガイドライン）の略称。観光庁が各地方公共団体や観光地域づくり法人（DMO）等が持続可能な観光地マネジメントを行えるように定めたガイドラインを示す
KGI	「Key Goal Indicator」の略称。企業・団体が展開する取組の最終目標を評価するための指標を示す
KPI	「Key Performance Indicator」の略称。KGI達成に向けたプロセスの進捗評価を行うための指標を示す
LGBTQ +	性的少数者の総称であり、多様な性を示す言葉として活用する
LRT	「Light Rail Transit」の略称。路面電車よりも道路交通への影響等が少ない軽量軌道交通のことと示す 例：富山ライトレール、宇都宮ライトレール等
MaaS	「Mobility as a Service」の略称。複数の種類の交通手段をICT等によってつなぎ、一括利用できるサービスを示す

1. 用語解説

2/4

用語	解説
MICE	「Meeting」（会議）、「Incentive Travel」（報奨旅行・研修）、「Convention」（国内外学会・総会）、「Exhibition/Event」（展示会・見本市、その他イベント等）の頭文字を取った言葉で、一般的な観光とは異なる集客交流の機会を提供するビジネスイベントを示す
PDCAサイクル	Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）に沿った業務管理サイクルを示す
SDGs	「Sustainable Development Goals」（訳：持続可能な開発目標）の略称。2030（令和12）年までに「持続可能な世界を実現すること」を目指す17のゴールと169のターゲットを示す
Uターン	地元から進学のために首都圏や大都市へ出てきた学生が、卒業後地元に帰って就職する、または都市圏で働いた後、転職して故郷に戻ることを示す
VFR	「Visit Friends and Relatives」の略称。友人や親族を訪問する旅行を示す
アウトバウンド	自国から国外への旅行を示す ⇄ インバウンド
アドベンチャーツーリズム	自然・アクティビティ・文化体験の3要素で構成される、非日常体験の旅行形態を示す
インクルーシブ	すべてを包括する、包みこむことを示す。人間には障がいの有無や性別、性的嗜好、人種など、様々な違いがあるが、このような違いを認め合い、すべての人がお互いの人権と尊厳を尊重しながら生きていく社会をインクルーシブ社会等といい、共生社会と呼ばれることがある
インバウンド	国外から自国への旅行を示す ⇄ アウトバウンド
ウェルネスツーリズム	心身のリフレッシュや健康の増幅を図ることを目的としている旅行形態を示す
ウォーカブル	人々が集い憩い様々な活動を繰り広げられる場を目指す、歩きやすい空間の構築・利活用のこと
うまんちゅ 御万人 すりていクリーン・ グリーン・ グレイシャス	「うまんちゅ 御万人すりていクリーン・グリーン・グレイシャス（CGC）運動」 沖縄県実行委員会が実施する、自分の住んでいる地域を大人も子どもも一緒に清掃するなど、健全な環境づくりを行う活動を指す
エコツーリズム	自然・歴史・文化等、地域の観光資源を保護しながら、これらを体験し学ぶ旅行形態を示す
オーバーツーリズム	観光地における観光客の過度な増加等が、地域住民の生活や観光客の満足度を著しく低下させるような状況
オープンデータ	誰でも自由に利用、再配布、加工できるデータのことを示す。主に国や地方公共団体が公開するデータを指す

1. 用語解説

3/4

用語	解説
カップルアニバーサリー ツーリズム	カップルが、結婚式等の人生の節目となる記念日を沖縄で実施することを目的とする旅行形態を示す
観光関連事業者	地域の観光振興に資すると認められる旅行業、宿泊業、観光施設事業、道路旅客運送業、飲食店業、小売業等の事業を営む者及びこれらの者と継続的な取引関係を有するIT関連等の事業者全般を示す
観光データ	観光客の行動をとられた人流データや消費行動を捉えた消費額データ等、様々な観光関連のデータを示す
教育機関	教育に関する基本的政策や各種教育施設、教員の養成や研修などを行う機関を示す
クリエイティブ産業	芸術、映画、コンピュータゲーム、服飾デザイン、広告など知的財産権を有した物の生産に関わる産業を示す
グリーンリカバリー	CO2排出抑制や生物多様性の保全に貢献する技術や企業に投資することで、経済を活性化させようとする景気刺激策を示す
ゲートウェイ2050	那覇空港から普天間基地にいたる西海岸地域を「価値創造重要拠点」と位置付け、この地域での産業の創出や人材育成などを進め、沖縄の経済的な発展を目指すための計画「ゲートウェイ2050プロジェクト」を示す
経済波及効果	特定産業において、新たに需要が発生した際に、需要を満たすために次々と新たな生産が誘発されていく効果を示す
サステナビリティ	自然環境や社会、経済等が将来にわたって持続していくことを目指す考え方を示す
サステナブル ツーリズム	地域の自然環境や歴史・文化等を守りながら、資源を持続的に保つことができる旅行や観光業の取組を示す
シェアサイクル	地域に設置された複数のサイクルポートを相互に利用し、自転車を自由に貸出・返却できる交通システムを示す
市内総生産	市内の経済活動によって生産された価値（付加価値）の総額を示す
シンボル軸	シンボル像の龍柱を入口として、若狭の海岸部から国際通りを経て首里城に至る軸を示す
ステークホルダー	地域社会の取組における利害関係者を示す。本計画においては、観光を楽しむ観光客や、観光振興の恩恵を受ける事業者や市民を包含して活用している
スポーツツーリズム	スポーツ大会・合宿・イベント等への参加や観戦を目的として地域を訪れ、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむことを目的とする旅行形態を示す
データドリブン	データに基づいて施策や事業、取組を検討・展開することを示す

1. 用語解説

4/4

用語	解説
トランジットモール	一般車両の通行を禁止し、歩行者・自転車とバスや路面電車などの公共交通機関の利便性を高め、街のにぎわいを創出しようとする取り組みを示す
二次交通	空港・港から観光スポット等の目的地までの交通手段を示す
ノマド	特定の場所や企業に縛られずに、自分のライフスタイルに合わせて働くスタイルの人々を指す
プラットフォーム	システムやサービスの基盤となる環境であり、主にサービス提供者と利用者等の2団体以上をつなぐ役割を果たす
ブリージャー	出張の前後に休暇を組み合わせて、出張先で旅行や観光などの余暇を過ごすことを示す
プリンジパーキング	都心部への自動車流入を抑制し、公共交通の利用や歩行を促すための都心周辺の駐車場を示す。
ユニバーサルツーリズム	高齢者、障がいのある方、妊婦、幼児、外国人など、誰もがストレスフリーで楽しむことができる旅行形態を示す
ユニークベニュー	地域の歴史的建造物や文化施設等で会議やレセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場を示す
琉球料理	琉球王朝時代に中国の冊封使や薩摩の在番奉行等を饗應するための料理が生まれ、調理技術や作法等を洗練させて確立した宮廷料理と、手に入る材料を用い医食同源の理念にかなった料理として創り出した庶民料理の双方を源流として合わせた料理を示す
レスポンシブルツーリズム	責任ある観光と訳され、観光に携わる全ての人が、地域の環境や文化等に与える影響に責任を持つべきであるという観光の考え方を示す
レジリエント	観光特有のリスクを整理し、観光地や事業者が困難に直面しても影響を最小限にとどめる機能を備えることを示す
ワーケーション	ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語。リゾート地など、普段の職場とは離れた場所で休暇を楽しみながら働くスタイルを示す

2. 計画策定の経緯

1/3

計画策定の経緯

本計画の策定経緯は以下のとおりです。

2023（令和5）年度	
2023年5月17日	第1回那覇市観光推進本部幹事会
2023年5月31日	第2回那覇市観光審議会
2023年7月5日	第3回那覇市観光審議会
2023年8月～10月	基礎調査（市民・観光客・観光関連事業者向けアンケート）の実施
2023年9月26日	第1回那覇市民向けワークショップ
2023年9月30日	第2回那覇市民向けワークショップ
2023年11月28日	第4回那覇市観光審議会
2024年1月9日	第1回那覇市観光推進本部
2024年1月31日	第5回那覇市観光審議会
2024（令和6）年度	
2024年4月16日	第1回那覇市観光推進本部
2024年4月30日	第1回那覇市観光推進本部幹事会
2024年7月5日	第1回那覇市観光審議会
2024年7月19日	第2回那覇市観光推進本部幹事会
2024年8月9日	第2回那覇市観光審議会
2024年8月16日	第3回那覇市観光推進本部幹事会
2024年8月28日	第2回那覇市観光推進本部
2024年9月9日～10月11日	パブリックコメント
2024年11月～12月	追加調査（観光客・観光関連事業者向けアンケート）の実施
2024年12月20日	第3回那覇市観光審議会
2024年12月24日	那覇市観光審議会からの答申（第2次那覇市観光基本計画案）
2024年12月26日	第4回那覇市観光推進本部幹事会
2025年1月9日	第3回那覇市観光推進本部
2025年1月21日	庁議付議・承認

2. 計画策定の経緯

2/3

那覇市観光審議会委員名簿（令和7年3月現在）

委員氏名	所属・役職	選任理由	備考
比嘉 正茂	沖縄国際大学経済学部 教授	学識経験者	会長
越智 正樹	琉球大学国際地域創造学部 教授		副会長
石坂 彰啓	那覇市国際通り商店街振興組合連合会 事務局長		
上原 小春	沖縄ITイノベーション戦略センター(ISCO) 事業支援セクションプロジェクトマネージャー		
慶田 佳春	一般社団法人沖縄県バス協会 専務理事		
徳田 博之	株式会社DMC沖縄 代表取締役社長	観光産業関係	
與座 嘉博	一般社団法人日本旅行業協会（JATA）沖縄支部長		
与那 和正	沖縄県飲食業生活衛生同業組合 那覇支部 副支部長		
渡邊 克江	那覇市観光ホテル旅館事業協同組合 副理事長		
山口 泰史	内閣府沖縄総合事務局 運輸部 観光課 課長	関係行政機関	
山田 みさよ	沖縄県文化観光スポーツ部 観光政策統括監		
親川 修	NPO法人バリアフリーネットワーク会議 理事長	その他市長が必要 と認める者	
名嘉元 裕	一般社団法人那覇市観光協会 事務局長		
目島 憲弘	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 常務理事兼事務局長		

2. 計画策定の経緯

3/3

那覇市観光審議会からの答申

那覇市観光審議会会长より、那覇市長へ次のとおり答申されました。

答申第1号

令和6年12月24日

那覇市長 知念 覚 様

那覇市観光審議会
会長 比嘉 正茂

第2次那覇市観光基本計画策定について（答申）

令和5年11月27日付け諮問第2号をもって諮問のありましたみだしのことについて、那覇市観光審議会規則第2条第1号により、別紙のとおり答申いたします。

以上



第2次那霸市観光基本計画

〒900-8585 沖縄県那霸市泉崎1丁目1番地1号

那霸市 経済観光部 観光課

TEL : 098-862-3276 FAX : 098-862-1580

発行年月 : 2025 (令和7) 年4月